

## 発刊に当たって

令和元年度から2か年、「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科別の指導の授業づくり」をテーマに、一昨年度までの2か年の取組に引き続き、「各教科」の授業改善について、授業実践を通して研究を進めてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による学校休業措置のため、例年に比べ児童生徒の実態把握が遅れることになり、指導計画が思うように立てられない状況にありました。しかし、学校が再開された日の児童生徒の元気な姿に勇気をもらい、職員一丸となってよりよい授業づくりに向けた様々なチャレンジが始まりました。公開研究会は行いませんでしたが、校内の自浄作用を最大限に生かした校内授業研究会や学部内研究会などを積み重ね、教師一人一人がとことん授業づくりに取り組んだ1年となりました。

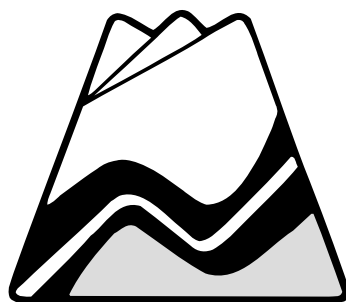
さて、中央教育審議会答申（平成28年12月）では、「主体的・対話的で深い学びの実現」について、「人間の生涯にわたって続く『学び』という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである」と述べています。また、授業改善の三つの視点である「主体的な学びの視点」、「対話的な学びの視点」、「深い学びの視点」の具体的な内容を要約すると、「見通しをもって粘り強く学習に向かうことができるようにすること。自己の学習活動を振り返って次につなげることができるようにすること」、「対話は、子ども同士はもちろん、教職員や地域の人、先哲の考え方を手掛かりに考える等、幅広いものである。いろいろな意見を聞き、自分の考えとの違いを比較したり、違う見方、考え方を得たりしながら、考えを広げ、深めることができるようにすること」、「各教科の特質に応じた『見方・考え方』を働かせるようにすること。教師が教える場面と、子どもたちに思考・判断・表現させる場면을効果的に設計し関連させながら指導していくこと」と述べています。

このことを踏まえ、本校職員は、教師として永遠の課題である授業改善に真摯に取り組み、日々の授業の中で生き生きと学ぶ児童生徒一人一人の姿を大事にし、その能力と可能性を最大限に伸ばすための授業づくりについて、実践を重ねてきました。とはいえ、成果はまだまだ途上にあります。これからも各学部、学年における児童生徒の発達段階と伸びしろを見通し、専門性に基づいた授業改善を探求し続けていきたいと考えています。

本紀要を一読いただき、多くの皆様から御意見、御指導を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、中学部の授業改善に御指導、御助言を賜りました秋田県立栗田支援学校 教育専門監 石垣 徹先生に心から感謝を申し上げます。

校長 佐藤 玉緒



## 目 次

発刊に当たって	_____	1
I 全体研究	_____	3
II 各学部・寄宿舎の研究		
小学部	_____	1 4
中学部	_____	2 4
高等部	_____	4 1
寄宿舎	_____	5 3
III 研究の成果と今後の取組	_____	6 1
あしがき	_____	6 5
研究同人	_____	6 6

# I 全体研究

## I 研究の概要

### 1 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科別の指導の授業づくり

(2年次/2か年計画)

### 2 研究主題の設定理由

本校では、平成29年度及び30年度の2年間は、研究主題「社会に開かれた教育課程編成の在り方」のもと、地域との目標共有や「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習過程の改善に取り組んできた。

地域と目標を共有した授業実践においては、単に地域に出て活動するのではなく、その活動を通して児童生徒のどのような資質・能力の育成を図りたいのかを地域の人たちと話し合い、確認した。お互いの考えを伝え合い、共に意見を出し合いながら学習活動や単元構成等を検討・改善してきたことで、お互いに必要とする、必要とされる関係となってきた。

「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習過程の改善においては、「秋田の探求型授業」について研修し、実践を重ねた。小・中学校の授業の進め方をそのまま取り入れることはできないものの、特別支援学校の指導においても参考にできることが多く、本校では特に、児童生徒がお互いの考えを伝え合う授業展開の方法や教室環境の工夫を取り入れ、授業改善につなげた。児童生徒の実態に応じた取り入れ方の工夫・検討を行ったことで、授業展開や教師の発問だけでなく、板書計画なども変化し、授業改善や児童生徒の変容へもつながっている。

このように、これまでの研究の成果を生かし、本校の教育理念から日々の授業までのつながりを意識した教育活動を実践することで、地域の人的・物的資源を活用した学習活動の取り入れや単元構成などがなされ、特に、各教科等を合わせて行う指導において、授業の質が高まってきた。このことは「教科別の指導」の改善や充実も図られてきていると言い換えることができるはずである。しかし、実践を重ねてきた職員からは、「今指導していることが、どの教科の、どの部分と関連しているのか分からない」「今指導している内容が間違っていないか不安を感じている」などの意見が寄せられ、教科別の指導に対する自信のなさがうかがわれた。

そこで昨年度は、「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科の授業づくり」を主題とし、研究に取り組んだ。各教科別の指導に関する内容や目標等を再確認すること、その上で実践を積み重ねていくことを通し、各教科別の指導に対する教師の理解を深めた結果、「教科別の指導においても、子どもたちの実態把握が大事なことを再確認した」「実態差のある集団の学習でも、子どもたち一人一人に学びがあるように授業の構成や活動を考えるようになった」など、自分たちの指導にも自信をもち始めてきている。しかし、学んだことがどのような場面で生かしているのか、本当に身に付いているのかを評価し、改善していくことには、さらに力を入れていく必要があるという課題が残った。そのため、昨年度の実践の成果を生かしながら実践を重ねることを通し、的確な学習評価を実施し、学んだことを様々な学習へとつなげていきたいと考え、本年度の研究主題を設定した。

研究2年次の到達目標 : 1年次の研究で確認された有効な手立てを生かし、授業実践を行う。その上で、児童生徒の分かったこと、できるようになったことを様々な学習へとつなげていく工夫を検討する。

### 3 研究の目的

- ア 児童生徒の学び方の特徴に注目し、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行う。
- イ 物的環境（教材・教具や補助具の工夫、ICT 機器等の活用等）や人的環境（発問、教師の役割分担等）の工夫改善により、児童生徒の学習課題に向かう意欲や学び合いを促し、学習内容の理解度を高める。
- ウ 各教科別の指導についての理解を深めるとともに、各教科別の指導で学んだこと（内容や学び方など）を他の学習場面や生活場面へとつなげ、活用を図る。

### 4 研究仮説

各教科別の指導における学習過程や学習計画の工夫、学びを振り返ることのできる環境設定などを行いながら、授業改善を行う。その際、各教科別の指導で学んだことと他の学習との関連を図りながら、学習活動の評価・改善を積み重ねる。このことにより、児童生徒に分かったこと、できるようになったことを実感し、生かしながら学習に取り組もうとする力が身に付けられるであろう。

### 5 研究内容・方法

今年度の実践では、昨年度の実践から改めて確認されたことを生かしながら実践を積み重ねるとともに、以下のことを実践していく。

#### （1）「教科別の指導」に焦点を当てた授業づくり

##### 【計画】

- ア 教育課程コーディネーターを交えた単元・題材検討、授業づくり
  - ・各教科別の指導のねらいや目標を意識した単元構成や授業展開の検討
  - ・児童生徒が見通しをもって取り組める学習活動の検討と実施
  - ・教科等横断的な視点での学習内容の組立
  - ・学習指導案の作成と、3観点での目標の立案

##### 【実践】

- ア 児童生徒が分かったこと、できたことを実感し、生かそうとする姿を育む授業実践
  - ・振り返りの充実
  - ・学んだことと考えたことを結び付け、思考を再構築する学習活動の取り入れ
  - ・学んだことを活用する場面の設定
  - ・児童生徒が対話を通して考え、表現しながら学び合う学習過程の設定
  - ・課題との対話、物との対話等も含め、発達の段階に応じた対話方法の検討

#### イ 児童生徒一人一人の学び方に応じた支援方法・教材の工夫

##### ○物的側面からの工夫

- ・学習活動の流れや過程が見える、板書、掲示、教室環境等の工夫
- ・手話やサイン、ICT機器の活用等、意思表示を促すための教材教具の工夫

##### ○人的側面からの工夫

- ・校外の人材（教育課程コーディネーター、教育専門監、地域の先生、関連機関等）との連携や活用

##### ○学習活動の側面からの工夫

- ・体験的な学習の取り入れや言語活動等の拡充

ウ 「特別支援教育のミニマムスタンダード(特別支援教育課、秋田県総合教育センター)」  
を活用した授業実践と改善

エ 授業研究会の実施

- ・各学部の全校授業研究会の実施と研究協議会の実施  
※今年度の研究対象教科 小学部：国語科 中学部：保健体育科 高等部：職業科
- ・研究協議会での授業の評価と改善案の検討、改善授業の実施
- ・部内授業研究会の実施

## (2) 児童生徒の学びや変容に基づいた評価と授業改善

【評価・改善に向けた再検討・実践】

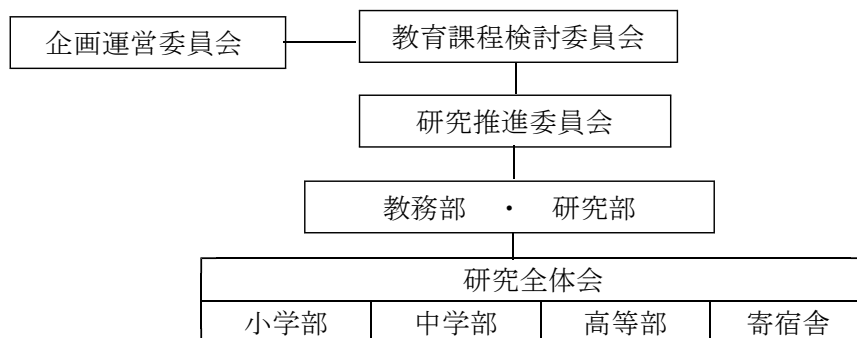
ア 学習活動を通じた、児童生徒の学びや変容の評価と改善

〈児童生徒の学びを評価〉 ・授業のまとめ時の振り返りシートの活用と積み重ね  
・抽出児童生徒の設定と、抽出児童生徒の変容の評価  
(中間評価・年間評価)

〈教師間での授業評価〉 ・児童生徒の様子に基づき、何を学んでいたか、つまづ  
いていたかを分析する評価シート(記録)の活用  
・単元終了ごとの、児童生徒の変容の評価検討会の実施  
・授業参観の視点を示した評価シートの活用  
・VTRでの記録・分析

イ 評価に基づいた授業改善と指導で有効だった手立ての共有、改善授業研の実施

## 6 研究組織



教育課程検討委員会：校長・教頭・学部主事・主任寄宿舎指導員・分掌主任・  
各学部研究リーダー

研究推進委員会：校長・教頭・学部主事・教育課程コーディネーター※  
研究部・寄宿舎研究担当

※教育課程コーディネーター：各学部の指導計画の立案や実施に当たり、学校目標や学  
部目標とのつながりを学級担任等に助言したり、地域の  
活用の有効性を伝え調整したりする。

## 7 研究計画

	実施時		実施内容
第 二 年 次	4月	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程コーディネーター会</li> <li>・研究推進委員会</li> <li>・研究全体会</li> </ul> ・今年度の研究の方向性と実施内容の共通理解 <b>【教務部と連携して】</b> ・一人一人の中心的課題の確認 ・各教科・領域等の年間指導計画のつながりの確認 他
	5月～	実践①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材検討会</li> <li>・見合う会の実施</li> <li>・指導主事計画訪問</li> </ul> ・研究主題に基づいた授業づくりの実践 ・本年度の研究領域となる教科の検討 ・本年度の主となる単元・題材の検討 他
	7・8月	中間評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材評価の会</li> </ul> ・7月までの実践についての評価と今後の取組について
	9月～	実践②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材検討会</li> <li>・見合う会の実施</li> <li>・全校授業研究会</li> </ul> ・授業づくりに向けた単元構成や授業の展開の検討等
	12月	実践の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材検討会</li> <li>・教育課程コーディネーター会</li> </ul> ・今年度の実践についての評価と今後の取組について ・次年度の教育課程編成に向けて
	1・2・3月	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・教育課程検討委員</li> <li>・研究全体会</li> </ul> ・2年間の実践の成果と今後の取組についてのまとめ ・次年度の取組についての検討 ・教育課程の改善 等
<p>○各学部の教育課程コーディネーター、学級担任、教科担任等とで定期的に検討会を実施する。</p> <p>(主な内容)</p> <p><b>【単元・題材検討時】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の実態把握と中心的課題の把握</li> <li>・個別の支援計画・個別の指導計画・年間指導計画等の関連</li> <li>・研究対象領域とした「教科別の指導」を中心とした題材検討</li> <li>・生活単元学習を中心とした「各教科等を合わせた指導」の単元検討</li> <li>・「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」との関連付け</li> <li>・授業研究会の授業づくりへの助言</li> </ul> <p><b>【単元・題材終了時】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践における指導方法や教材・教具等についての評価と改善</li> <li>・単元・題材を通しての児童生徒の変容</li> </ul>			

## II 研究の実際

研究2年次となる今年度は、昨年度に引き続き教科別の指導の授業づくりに焦点を当て、「分かったこと、できるようになったことを実感し、それを生かしながら学習に取り組む児童生徒の姿」を育むために実践を重ねた。また今年度は、研究対象とした教科において、単元・題材の終了時に、児童生徒の変容を基に評価検討会を実施し、改善と再実践に力を入れて研究を進めた。

### 1 「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点を採り入れた授業づくり

どのような視点をもち、授業づくりに取り組むのかを明確にするため、文部科学省から示されている「主体的・対話的で深い学びの実現（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善）について」を基に、本校の児童生徒の実態に応じた視点を定め、取り組んだ。

今年度の研究対象教科と各学部の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を以下に示す。

#### (1) 今年度の研究対象教科

小学部：国語科          中学部：保健体育科          高等部：職業科

#### (2) 各学部の「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点

##### 【小学部】

主体的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"><li>・興味関心をもって学習しているか。</li><li>・見通しをもって、進んで取り組んでいるか。</li><li>・最後まで取り組んでいるか。</li><li>・自分の学びを振り返ろうとしているか。</li></ul>
対話的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達や教師に働きかけたり、働きかけを受け入れたりしているか。</li><li>・友達や教師とやり取りしているか。</li><li>・友達や教師に注目したり、やり方や言葉を模倣したりしているか。</li><li>・教材に注目したり、十分に操作したりしているか。</li></ul>
深い学びの視点	<ul style="list-style-type: none"><li>・学んだこと、覚えたことを一人で表したり発揮したりしているか。</li><li>・自分と異なる意見や考えを受け入れているか。</li><li>・新しい考え方や見方に気付き、取り入れているか。</li></ul>

##### 【中学部】

主体的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"><li>・興味や関心をもって学習しているか。</li><li>・学習活動に見通しをもって、自分から学習に取り組もうとしているか。</li><li>・粘り強く、最後まで学習に取り組んでいるか。</li><li>・自分の学習活動を振り返っているか。</li></ul>
対話的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"><li>・教材に関心を示し、注目したり、操作したりしながら取り組んでいるか。</li><li>・友達や教師の動きに注目したり、まねたりしているか。</li><li>・自分の考えたことや感じたことを、友達や教師に伝えようとしているか。</li><li>・自分と異なる意見や考えを受け入れているか。</li><li>・過去の自分の考えを振り返りながら取り組んでいるか。</li></ul>
深い学びの視点	<ul style="list-style-type: none"><li>・覚えたことや学んだことを実践しようとしているか。</li><li>・友達や教師からの異なる意見やアドバイスなどを受け入れ、解決するためにどうしたらよいか、考えているか。（対話的な学びの視点とも共通）</li><li>・新たな課題を見出して、解決策やアイデアを考えているか。</li></ul>



【高等部】

主体的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもって学習しているか。</li> <li>・見通しをもち、自ら進んで学習に取り組んでいるか。</li> <li>・自らの学びを振り返り、次時に生かそうとしているか。</li> </ul>
対話的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をもち、自らの考えを相手に伝えることができているか。</li> <li>・自分の考えを深めるために、教材に注目したり、他者の意見を取り入れたりしているか。</li> <li>・友達や教師など他社からの意見に対して、自分の考えをもつことができているか。</li> </ul>
深い学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを実践しようとしているか。</li> <li>・自己評価や他社評価を通して、自らの考えをまとめようとしているか。</li> <li>・新たな考え方や見方に気付き、取り入れ、実践しようとしているか。</li> </ul>

以上の視点を踏まえながら、「分かったこと、できるようになったことを実感し、それを生かしながら学習に取り組む児童生徒の姿」を育むために行った実践については、「Ⅱ 各学部・寄宿舎の研究」のページに詳しく記す。

2 学習活動を通じた、児童生徒の学びや変容の評価

今年度は、児童生徒の学びを確かなものとするためには授業の評価・児童生徒の変容の評価などを大切にする必要があるとの1年次目の課題を受け、評価の充実に取り組んだ。

今年度取り組んだことは、次の二点である。

(1) 評価検討会の定期的な実施

今年度は研究対象とした教科別指導の授業について、評価を行う単元・題材検討会を意識して行うこととした。検討会を、単元・題材の終了時としたことで、職員が意識して実施することができた。単元・題材の取組期間に違いはあるものの、評価の会を定期的に実施することができた。

(2) 評価シートの活用

授業における児童生徒のどのような姿を評価したらよいかの指標となるように、研究部が提案した評価シートを活用して評価を実施した。

シートは、実際に使った職員の意見を受け、何度か改定を行った。評価シートを活用することで、話し合うことが焦点化でき、児童生徒の学びを多面的に把握することができた。

【単元・題材の評価シート パート①】		評価日： 年 月 日( )	
単元・題材名		指導者	
グループ構成員		評価者	
①単元・題材の目標			
科・年			
題・単			
主			
	学習過程	児童生徒の姿	次の授業での改善点
	活動の流れ	工夫したこと	
導入			
展開			
まとめ			
備考ありこれ			

図) 単元・題材評価シート

3 全校授業研究会の実施

今年度は「教科別の指導」の授業に焦点を当て、下記の日程で3回の全校授業研究会を行った。

第1回全校授業研究会 10月8日(木) 提示授業：中学部「保健体育科」

第2回全校授業研究会 12月1日(火) 提示授業：小学部「国語科」

第3回全校授業研究会 12月17日(木) 提示授業：高等部「職業科」

コロナ禍ということもあり、他校への参加案内を控えたが、自校の管理職に指導助言を依頼し

たり、今年度初めて配置された保健体育科の教育専門監に授業づくりのアドバイスをもらったりしながら、授業改善に取り組むことができた。3回の研究協議会での指導助言を以下に記す。

(1) 第1回全校授業研究会 令和2年10月8日(木)実施

提示授業	: 中学部 「保健体育科」
題材名	: のしろトトメキニコリンピック2020 ～空手道の形に挑戦しよう～



第1回全校授業研究会では、県立栗田支援学校に配置された、保健体育科の石垣徹教育専門監に単元・題材構想の段階からアドバイスをいただきながら授業づくりに取り組んだ。

石垣教育専門監には、空手道の授業日は毎回参観していただいたとともに、授業の展開や生徒への指導などに関して気付いたことを助言いただき、次時への改善へつなげることができた。

【指導助言】

①指導助言者 石垣徹教育専門監

1 本時までの授業づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業反省を生かし、本時の授業提示となった。子どもの生き生きとした表情、一つ一つの動き、今日が一番よかった。T1をはじめとした先生方が毎時間話し合いを重ね、共通理解をしてきた結果である。</li> <li>・授業を通して、生徒にどんな力を身に付けてほしいのかを考えて、授業改善を行うことができた。</li> </ul>
2 保健体育科としての学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活を考えると、子どもの体力向上が必要である。それぞれの障害によって運動機会の確保が不十分なため、いろいろな運動を経験する機会が必要である。体育の様々な活動を通して体力づくりに引き続き取り組んでほしい。</li> <li>・特別支援学校で武道を扱うことは少ない。柔道、剣道、相撲が一般的であるが、なかなか難しい。その中で空手道を取り扱うにあたり、「なぜ空手道なのか」を確認した。空手道のよさはいろいろあるので、扱う内容を精選することで、学びが深まる題材である。</li> <li>・保健体育科では体を動かして「楽しかった」経験、できなかったことができるようになった実感を得た姿などが引き出せるとよい。</li> </ul>
3 生徒への支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものよさを引き出すための支援、もっとよくなるように言葉掛けをする支援ができた。</li> </ul>
4 「アダプテッド・スポーツ」について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもをルールに従わせるのではなく、子どもに合わせたルールを設定することによって障害をもっていても参加できるという考え方である。大切にしてほしい視点である。</li> </ul>

②指導助言者 佐藤玉緒校長

1 空手道について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空手道は扱う学校がないため、参観する側としても新鮮だった。コロナ禍において、全国的にも取組が増えてきている。</li> <li>・空手道は危機管理能力の育成（受け身）、チームワークの向上、身体非接触で安全、男女問わずできる、道具の準備がいない、成果の発表ができるなど、様々な利点がある。</li> </ul>
2 生徒に応じた配慮について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「位置」について。子どもによっては空間認知が難しかったり、曖昧だったりする。その曖昧さをどう埋めていくか。具体的に検討してほしい。</li> <li>・一人一人の体の使い方についても確認する必要がある。</li> </ul>
3 授業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジ2～振り返りではメリハリがなく、淡々と進められていた。T1は授業にメリハリをつけることが必要。</li> <li>・準備体操を行ったら、整理体操も必要である。他の授業でいう「片付け」である。</li> <li>・保健体育科としてどんな力を身に付けたいのかを明確にしていくことが大切である。</li> </ul>

(2) 第2回全校授業研究会 令和2年12月1日(火)実施

提示授業： 小学部 「国語科」
題材名： ことばはかせになろう ～きもちをあらわすことば～



【指導助言】 指導助言者 伊藤登美子教頭

1 授業の様子について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がとても楽しい雰囲気に取り組んでいた。また、学習のルールが徹底されていた。</li> <li>・全体協議で前回よりも活発に協議している印象を受けた。授業を受けた児童や見ている職員を引き付けたよい授業だったからではないか。</li> </ul>
2 職員間の連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Tが1一人の授業だったが、授業者任せにせず、学級担任、学部全体が一丸となって授業づくりに取り組んでいた。他教科の担当職員や、学級担任、学部職員などと連携をとることを大切にしてほしい。</li> </ul>
3 授業づくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何を学ぶか」だけではなく、「何ができるようになるか」、「何ができるようになったか」という視点から授業づくりをすることを大切にしてほしい。</li> </ul>

4 目標と活動の整合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、「どきどき」「びっくり」という言葉を知り、どのように使うのかを理解することが教師側のねらいであったが、そのねらいと活動とにズレが生じていなかっただろうか。</li> <li>・学習指導要領における2段階は、「言葉を想起する」ことが大事である。展開の仕方を検討し、次の授業づくりにつなげてほしい。</li> </ul>
5 国語科としての指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習ではなく国語科の授業である。まとめの時間に発する言葉は、ゲームの時間とのメリハリをつけ、精選してほしい。</li> <li>・改めて教科書を見直すことも、教材研究の一つである。星本も「どんな気持ち？」を題材として取り扱っているので参考にしてほしい。</li> <li>・国語科は全ての学習の基盤。学習した言葉について本質的なところで理解しているのか、きちんと見取って評価してほしい。そのことが子どもの「生きる力」につながっていく。</li> </ul>
6 自立活動を踏まえた授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりをするときに、自立活動の視点を踏まえて考えることも大切にしてほしい。言葉で表現する力を高めることで、情緒の安定につながっていく。</li> </ul>
7 指導案の「本時の目標」の記述の仕方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は2か年目の研究となる。本時の目標を3観点で設定している。その意味を職員全体で共有するとともに、次年度以降どのように記述していくのか検討が必要ではないか。</li> </ul>

(3) 第3回全校授業研究会 令和2年12月17日(木)実施

提示授業 : 高等部 「職業科」
題材名 : 自分をさらに高めるために ～後期職場実習から～

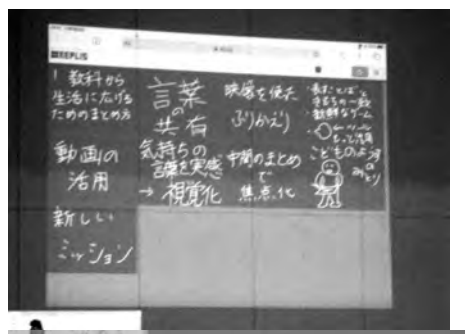


【指導助言】 指導助言 佐藤大教頭

1 授業の様子について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研で出された意見を生かし、様々な場面で改善があった。</li> <li>・挨拶、返事、発表の聞き方（頷く（共感）、相手の方を見る）など、学習のルールが身に付いていた。他の先生方にも確認してもらいたい。</li> </ul>
2 学習環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に意見交換できる環境が整えられていた。グルーピング、場の設定、動画の切り方も工夫されていた。それにより、生徒同士の意見交換が活発に行われていた。自分から話すことが少ない生徒であっても、友達の意見を聞いたり、付箋を見て自分の意見に反映しようとしていた。</li> </ul>

3 授業の組立について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1単位時間（小学部45分、中・高等部50分）で完結できるように組み立てるのが基本となる。なぜ計画通り終わらなかったのか、個への配慮が適切であったかなどを再考してほしい。</li> </ul>
4 個への配慮について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く、表出するなどの時間を一人一人に配慮できていたか。付箋を使用することや、プリントは全員が同じでよいのかなど再考し、生徒に応じた対応を工夫してほしい。</li> </ul>
5 めあてについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が一方向的に提示する授業が多いが、主体的に物事を考えていくためには、生徒の言葉からめあてが提示できればよい。そのための発問を考えてほしい。このことが生徒の主体的な意欲につながっていく。</li> </ul>
6 振り返りの充実について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発表を聞いた生徒達が「どう思った」「自分の何に生かされるのか」などを再考する時間がなかった。「自分の意見をまとめる」、「発表する」、「友達の意見を聞く」などの活動があるが、振り返りを充実させるための活動の順番を検討してほしい。</li> <li>・自分の強みを理解して、「他の友達はこちらがすごい。自分には難しい。」ということを実感できる工夫と、「だから自分はこの強みを活かして〇〇を頑張る」という考え方ができる工夫をしてほしい。</li> </ul>
7 教科「職業科」の学習について (作業学習との違い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業科の指導要領を確認し、改めて考えてもらいたい。今回の提示授業は職業生活の「職業」の部分、産業現場等における実習の内容だった。扱っている内容が生徒に合っているか確認してほしい。</li> <li>・教科等を合わせた指導とも関連させ、年間指導計画に内容が網羅されているか確認してほしい。必要に応じて内容を加えていくことも必要。情報機器の分野はどの教科・領域の年間指導計画でも扱われていないため、年間指導 計画全体を見直す必要がある。</li> <li>・福祉サービス利用の生徒の職業科についても改めて確認してほしい。</li> </ul>

※授業づくりに関する詳細は、各学部のページに記載する。



## Ⅱ 各学部・寄宿舎の研究

### 小学部

# 小学部の実践 ～国語科の取組を通して～

## 1 研究対象教科の設定理由

小学部では昨年度、国語科を取り上げ、授業づくりを行った。共通の指標として学習指導要領と「学習到達度チェックリスト」を用いた実態把握、体験的で繰り返すことのできる題材設定や、新しい言葉を覚えたり、友達や教師と共有したりする学習過程、教材の工夫を行うことで、学習した言葉を使う様子や、友達や教師の発言に注目して聞いたり、問い掛けに答えたりする様子などが見られるようになった。

今年度は昨年度の研究成果や、小学部の児童の実態、学部目標などから、言葉を分かって行動したり、自分の思いを表現したりする力をさらに伸ばしたいと考えた。また、国語科は全ての学習活動と関わりがあること、全学年が共通して取り組むことのできる教科であることから、国語科の授業づくりを継続して行うこととした。

## 令和2年度 国語科を通して目指す姿

小学部では、国語科で特に育みたい資質・能力を「日常生活に必要な言葉が分かり、言葉による関わりを受け止めたり、自分の思いをもって伝え合ったりする力」と捉え、この力を発揮できる児童の姿を目指して授業づくりに取り組んできた。

## 2 授業改善の工夫と児童の様子

### 題材名「ことばはかせになろう～きもちをあらわすことば～」

#### 題材の要旨・特徴

小学部では主に低学年団・高学年団に分かれた中で実態別グループ編成を行い、合計6グループで学習を実施している。ここでは、低学年団の2・3年生の児童3名によるグループについてまとめる。

本グループは知的障害の児童3名がおり、小学部学習指導要領国語科の2段階の目標に当たる集団である。言葉や身振りで自分の気持ちを伝えようとするが増えてきているが、分からない言葉があると困って固まってしまうたり、「頑張りました」「楽しかったです」と決まったことしか話さなかつたりする場面が見られる。

本題材では、いろいろな気持ちを表す言葉を覚えたり、覚えた言葉を使って自分の気持ちを他者に伝えたりする力を育むことを目指している。「うれしい」「くやしい」「どきどきする」「緊張する」などの様々な気持ちを感じられるように、体験的な活動としてゲームを行い、そのときに感じたことを言葉や身振りで表現する場面を設定したことで、気持ちを表す言葉を覚え、伝える姿につながると考え、本題材を設定した。

【缶積みゲームの様子】



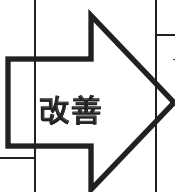
【ゲームをしたときの気持ちを考える様子】



(1) 指導計画の改善(児童生徒が分かった、できたを実感できる授業づくりにおける取組)

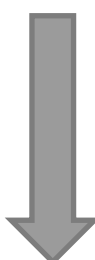
＜検討前の指導計画＞

次	学習活動	時数
一	いろいろなきもちのことば ・身近な気持ちを表す言葉を知る	7
二	はなしてみよう ・経験したことの写真やイラストを見て、場面に合う気持ちの言葉を話したり、身振りで表現したりする	10
三	きもちのことばずかんをつくらう ・学習した気持ちを表す言葉について冊子にまとめる	4



＜検討後の指導計画＞

次	学習活動	時数
一	いろいろなきもちのことば ・身近な気持ちを表す言葉を知る ・簡単なイラストを見て、見て分かること(何をしている場面か、表情など)を話したり、場面に合う気持ちの言葉を選んだりする	7
二	「どんなきもち？」はなしてみよう① ・体験的な活動を通して感じた気持ちを言葉や身振りで表現する(うれしい、楽しい、くやしいなど)	6
三	「どんなきもち？」はなしてみよう② ・体験的な活動を通して感じた気持ちを言葉や身振りで表現する(どきどきする、びっくりしたなど)	6
四	きもちのことばずかんをつくらう ・学習した内容について、学習の様子の写真や表情イラストを用いて、書いて冊子にまとめる	6



<p>問題点</p> <p>①児童が主体的に取り組んだり、学んだことを活用したりできる題材になっていない。</p> <p>②児童が気持ちを実感し、気持ちを表す言葉と結び付けることができるための工夫が少ない。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------



<p>改善したポイント</p> <p>①学習を段階的に積み重ねたり、見通しをもって繰り返し学習したりする題材設定</p> <p>②気持ちを実感できるように体験的な学習活動を取り入れた題材の検討</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------

＜改善ポイント① 段階的で発展性のある題材設定＞

- ・児童の実態と中心的課題から、気持ちを表す言葉を取り上げた。また、特に使用することの多い言葉や、身に付けてほしい言葉として「うれしい」「くやしい」「どきどきする」「緊張する」に絞って題材を設定した。
- ・児童が見通しをもって取り組んだり、学習した気持ちを表す言葉を活用して話したりすることができるように、小題材を設定し、繰り返し学習できる題材設定になるように見直した。



- ・気持ちを表す言葉に関心をもち、いつも使うことが多かった「楽しい」以外の言葉を発したり、感想として選んだりするようになった。
- ・活動の流れを同じにした繰り返しの学習によって、主体的に活動に取り組む中で自然と気持ちを表す言葉をたくさん話したり、覚えた言葉を使って話そうとしたりする様子が増えてきた。



〈改善ポイント②気持ちを実感するための体験的な学習活動としてゲームを取り入れた題材設定〉

- ・玉が入った数を競う玉入れ、缶をみんなで高く積み上げる缶積みゲームなど、気持ちを表す言葉を引き出すことのできるゲームを取り入れた題材を設定した。



- ・実際にゲームを行うことで、児童が自分の感じた気持ちを言葉で表したり、友達や教師の言葉を聞いてまねをしたりする様子が見られた。取り上げる気持ちを表す言葉を授業の導入で提示し、ゲームの中で体感できるようにしたことで、感じた気持ちと気持ちを表す言葉を結び付けて使えるようになってきた。

【玉入れゲーム】



【缶積みゲーム】



(2) 学習過程の改善(児童生徒が分かった、できたを実感できる授業づくりにおける取組)

〈従来の学習過程例〉

〈検討後の学習過程〉

時間	学習過程
5	1 初めの挨拶をする。
	2 「きもちのことば」を確認する。
5	3 本時の活動とめあての確認をする。
20	4 玉入れゲームをする。 ・準備をする。 ・ゲームをする。 (児童のみ、1人ずつゲームをする)
13	5 まとめをする ・「吹き出しカード」を見ながら出てきた言葉を確認する。(全体) ・「わたし(ぼく)は、ゲームをして気持ちを表す言葉です。」の文章を1つ作る。(個人) ・作った文章を発表する。(全体)

改善①

改善②

時間	学習過程
5	1 初めの挨拶をする。
	2 「きもちのことば」を確認する。
5	3 本時の活動とめあての確認をする。
20	4 「缶積みゲーム」をする。 ・準備をする。 ・ゲームをする。 (教師も参加し、4名でゲームを行う)
13	5 まとめをする ・「吹き出しカード」を見ながら出てきた言葉を振り返る。(全体) ・自分の気持ちに、最も合う言葉が書かれた「吹き出しカード」を1枚選ぶ。(個人) ・発表する。(全体)

問題点

- ①児童同士や教師を含めた他者とのやりとりを通した学び合いの場面が少ない。
- ②具体的な場面と気持ちを表す言葉を結び付けて考える機会が少ない。

改善したポイント

- ①ゲームの内容を工夫し、児童同士や教師とやりとりをしながら学習する場面の設定
- ②児童の発言の視覚化、気持ちを表す言葉の実感につながる発問や、まとめ方の工夫

〈改善ポイント①ゲーム内容を工夫し、友達や教師とやりとりをしながら学習する場面の設定〉

- ・学んでほしい気持ちを表す言葉を引き出すために、勝敗があるゲームや全員で取り組むゲームを設定したり、友達がゲームをしている様子を見られるように配置や活動の流れを工夫したりした。



- ・勝敗がある玉入れゲームでは「うれしい」「くやしい」の気持ちを実感し実際に使って話していた。また、全員で缶を積み上げる缶積みゲームでは、倒さないように緊張感をもち、「どきどきする」「緊張する」と発したり、友達のまねをして話したりする様子が見られた。
- ・友達や教師がゲームをしている様子を見て、友達の感じている気持ちについても話したり、教師の発問を聞いて答えたりした。

【友達とのやりとり場面】



【教師とのやりとり場面】



〈改善ポイント②発言の視覚化、気持ちを表す言葉と実感を結び付ける発問やまとめ方の工夫〉

- ・児童の発言やつぶやいた言葉を吹き出しカードに書き留めて黒板に貼り、自分で選んだり、全体で共有したりするようにした。
- ・ゲーム前やゲーム後の気持ちを聞き、実際の場面と自分の気持ちについて考える場面を設定した。
- ・授業のまとめで自分の気持ちに合う言葉を吹き出しカードから選び、どうしてそのように感じたのかを問うことで、気持ちと感じた状況や理由を考える場面を設定した。



- ・吹き出しカードを手掛かりにして、場面に合う気持ちの言葉を話そうとする様子が見られた。
- ・教師が共有した言葉をまねしたり、取り入れて話したりしていた。
- ・ゲーム前の緊張感を「どきどきする」と言葉にしていた。
- ・ゲーム後にたくさん玉が入ったときや高く積み上げられたうれしさを「うれしい」と表現したり、あまり玉が入らなかったときや缶を倒してしまったときの悔しさを「くやしい」「残念」と表現したりしていた。

【吹き出しカードの活用】



【児童と教師のやりとり】



【まとめ場面の様子】



「国語科を通して目指す姿」を育むために

今年度の実践を通して、小学部の国語科の授業で大切にしたいことは

- ①体験的な学習活動の設定
- ②言葉の視覚化・動作化
- ③言葉の意味を実感するための学び合い
- ④学んだ言葉を使う場面の設定

が大切であると考えている。

### 3 実践の成果

今年度、国語科における主な実践は以下の点である。

- ・実態把握：小学部学習指導要領、昨年度から活用している「学習到達度チェックリスト」を用いて一人一人の国語科のねらいを明確化した。また、自立活動の流れ図から出した中心的課題を基に、各指導の形態における目標を学級担任と教科担当で共有したり、評価したりした。
- ・指導計画：日常的によく使う気持ちを表す言葉を題材として取り上げた。体験的な活動を取り入れ、毎時間の流れを同じにし、児童が見通しをもって活動に取り組むことができた。また、気持ちを表す言葉を実感できるようにゲームの内容や教師の役割を工夫することができた。
- ・学習過程：新しい気持ちを表す言葉や使い方に着目できるように、児童同士や教師とのやりとりを通して学び合う場面を設定できた。また、具体的な場面と気持ちを表す言葉を結び付けて考えられるように、児童の発言の視覚化、気持ちの実感につながる発問や振り返り場面を設定できた。

これまでの実践から、児童に以下の変容が見られた。

- ・ゲームという体験的な活動を通して、「頑張った」「楽しかった」以外の気持ちを表す言葉（「うれしかった」「悔しかった」「どきどきした」など）を覚え、具体的な場面と結び付けて使うことが増えてきた **【言葉の理解、拡充】**
- ・学習活動の流れを同じにしたことで、活発に発言をしたり、主体的に活動したりする姿が見られた。 **【主体的に学習へ取り組むための工夫】**
- ・全員で取り組むゲームを通して、友達や教師の様子や発言に注目し、それに対して復唱したり、自分の考えの中に取り入れたりするようになった。 **【他者の発言への気付き、学び合い】**
- ・各学習での感想発表や、帰りの会での発表など、学校生活の中で覚えた気持ちを表す言葉を使う場面が増えてきた。自分から発言したり、自信をもってやりとりしたりする姿も増えてきている。 **【他の学習場面での活用】**

### 4 今後の取組

今後取り組むことや、検討が必要な事項は以下の点である。

- ・吹き出しカードを活用して発言の視覚化の工夫などを行ったが、動画や写真の活用など、具体的な場面と言葉を結び付ける工夫がさらに必要である。
- ・気持ちを表す言葉を表情のシンボルマークとして授業で活用したが、他の学習場面での手掛かりとなるように、各学級でも掲示したり、活用の仕方を工夫したりする必要がある。
- ・児童一人一人がどの段階まで言葉を覚えているのか、使うことができているのかを把握し、次に指導をする内容の参考となるように、学習指導要領のどの段階を取り上げて学習したのかをまとめ、次年度に生かす。
- ・今年度、題材検討会や、題材の評価会を定期的実施し、学級担任と教科担任で実態や目標、評価を共有することができた。7月に国語科を見合う会を設定し、授業改善につなげることができた。学級担任と教科担任による検討や、評価をする機会を今後も継続して設定し、各教科と他の学習の実態や目標、評価を共有していく。
- ・年間指導計画を立案する際に、国語科の内容である「聞くこと・話すこと」「書くこと」「読むこと」がバランスよく学習できるように検討する必要がある。

4 指導計画（総時数 25 時間）

次	小題材名	活動内容	時数
一	いろいろなきもちのことは	・気持ちを表す言葉を知る。 ・簡単なイラストを見て、イラストを見て分かること（何をしている場面か、表情など）を話したり、場面に合う気持ちを表す言葉を選んだりする。	7 時間
二	「どんなきもち？」はなしてみよう①	・体験的な活動を通して感じた気持ちを言葉や身振りで表現する。（うれし、楽しい、くやしいなど）	6 時間
三	「どんなきもち？」はなしてみよう②	・体験的な活動を通して感じた気持ちを言葉や身振りで表現する。（どきどきする（緊張）、びっくりした、など）	6 時間 本時 17 / 25 時間
四	きもちのことはずかんをつくろう	・学習した内容について、学習の様子の写真や表情イラストなどを置いて冊子にまとめる。	6 時間

5 本時の計画（総時数 25 時間中の 17 時）

(1) 全体の目標	
知・技	「どきどき（する）」「びっくり（した）」など、自分が感じた気持ちを表現するた めの言葉が分かる。
思・判・表	ゲームを通して感じた気持ちを、適切な言葉や擬音、身振りをういて表す。
主	ゲームを通して、教師や友達に自分からやり取りしようとする。

(2) 個別の目標

氏名	本題材に関する 児童の実態と様子	題材の目標	本時の目標 (本時、特に達成したい1観点に絞り 表記)
A	・自分の気持ちを簡単な言葉を用いて表現する。どう話せばよいか迷っているときには、選択肢を用意することで自分の気持ちに合った言葉を選ぶことができる。 ・自信がないときには、友達の発言をまねいたり、様子を伺ったりしていることが多いが、少しずつ自分の気付きや考えを話すことができるようになってきた。	「どきどき（する）」「びっくり（した）」など、自分が感じた気持ちを表す。 教師や友達の様子を見たり、まねをしたりしながら、感じたことを表す。 ゲームを通して、教師や友達に自分から気持ちを伝えようとする。	教師や友達の様子を見たり、まねたりしながら、ゲームを通して感じたことを「どきどき」「びっくり」などの言葉を使って話す。

小学部 2・3 年 国語科 B グループ 学習指導案

日時 令和 2 年 12 月 1 日 (金) 9:35 ~ 10:20  
 場所 小学部 3 年 1 組教室  
 授業者 鈴木 梨沙 (T1)

1 題材名

ことばはかせになるう〜きもちをあらわすことば〜

2 題材の目標

知・技	気持ちを表す言葉について知る。
思・判・表	体験して感じたことを、覚えた言葉を使って表す。
主	知っていることや気付いたことなどを簡単な言葉や身振りで自分から伝え、教師や友達とやり取りしようとする。

3 児童と題材について

小学部 2 年生 1 名、3 年生 2 名、計 3 名の学習グループである。3 名とも言葉が増えてきて、知っていることや気付いたこと、自分の経験等を簡単な言葉を用いて伝えたり、身近な大人や友達とやり取りをしたりすることができるようになってきた。授業の終わりに学級の帰りの会で行う「がんばり発表」などでは、自分から話そうという意欲はあるものの、気持ちを表現するための言葉が少なく「楽しかった」や「がんばった」など、いつも決まった話し方をしたり、他の人のまねをしたりすることがある。また、自分の気持ちを上手く表現することができず、黙ってしまったり、泣いてしまったりということが多い。

本グループの児童は、主に特別支援学校学習指導要領国語科の 2 段階の目標と内容を学習している。前題材では生活の中でよく使う動詞を取り上げた。動詞が表す動きと言葉がつながるように、コップや鉛筆などの身近なものを実際に操作しながら、動きに合う言葉を選んだり、話したりする学習を行った。それまでは、言葉の意味が分からないことで、相手の言ったことや指示が理解できずにオウム返しをしたり、困って固まってしまうということがあるが、動詞を正しく使ったり話したり、指示を理解して動いたりする姿が見られるようになった。本題材においては、気持ちを表す言葉を覚えたり、覚えた言葉を使って自分の気持ちを他者に伝えたりすることができるようになっている。「くやしい」「緊張する」などの様々な気持ちを他者に伝えることができるようになる体験的な活動を設定し、そのときに感じたことを言葉や身振りで表現し、伝える経験をする中で、様々な言葉を使って自分の気持ちを表現しようとする意欲につながるとは考えないかと考える。

指導に当たっては、次の点に留意する。

- ・これまでの学習内容を振り返るとともに、本時の学習における手掛かりとなるように、前時までに学習した内容を壁面に掲示したり、写真やイラスト、具体物等を用意したりする。
- ・感情については児童によって感じることが異なる場合があるため、お互いに意見を聞き合ったり、認め合ったりする場面を設定する。
- ・覚えた言葉を実際に使うことができるとともに、言葉を引き出すための体験的な活動を設定する。
- ・言葉について日常生活場面で実際に使いつながりながら理解を深めることができるよう、国語科のグループ担当と担任との間で児童の実態や学習内容等について情報交換をする。

### (3) 学習過程

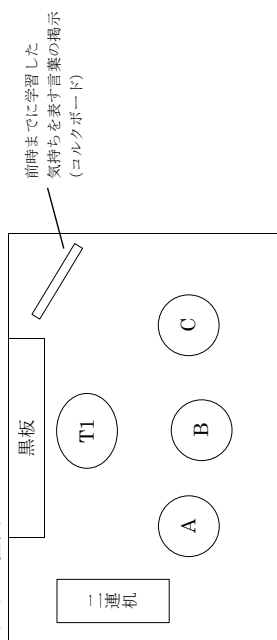
時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
9:35 (5)	1 初めの挨拶をする。 2 「きもちのことば」を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い姿勢を意識できるように、教師が見本を示したり、姿勢よく座るポイントを伝えたりする。</li> <li>「どきどきする」「びっくり」など、本時を通して引き出したい言葉を中心に確認する。</li> <li>楽しく確認できるように、クイズ形式で行う。</li> </ul>
9:40 (5)	3 本時の活動とめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に見通しをもてるように、教材の一部を見せたり、楽しい雰囲気で行ったりする。</li> </ul>
	めあて ゲームをしながら、じぶんのきもちをおはなしよう。	
9:45 (20)	4 「伍積みゲーム」をする。 ・準備をする。 ・ゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童から気持ちを表す言葉を引き出せるように、児童と一緒に楽しんで驚いたりして、楽しい雰囲気で行う。また、児童の様子を見て「どんな気持ち?」など言葉掛けをする。</li> <li>Bを感じたことと言葉結び付けことができるときには、児童の気持ちを汲み取りながら「高くなってきだね、どきどきするね」など教師が言語化して伝える。</li> <li>AとCが友達の様子や発言に注目できるように、ゲームをしていく様子や友達の様子が見えるように場所を設定したり、「〇〇さんは、倒れてびっくりしたんだね」などと教師が児童の発言を拾い、全体に伝えて共有したりする。</li> <li>児童から出てきた「気持ちを表す言葉」を「吹き出しカード」に書いて文字化する。</li> </ul>
10:05 (13)	5 まとめをする。 ・「吹き出しカード」を見ながら出てきた言葉を振り返る。(全体) ・自分の気持ちに最も合う言葉が書かれた「吹き出しカード」を1枚選ぶ。(個人) ・発表する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aが自信をもって自分の気持ちを話すことができるように、定型文を用意する。</li> <li>それぞれが感じたことを全体で共有できるように、発表し合う時間を設定する。</li> <li>気持ちを表す言葉と感じた状況や理由を結び付けることができるように、教師が「どうして/どんなときに〇〇だと思った?」とインタビュー形式でやり取りする。また、話し方に困っているときは、選択肢を提示したり、気持ちを汲み取って代弁したりする。</li> </ul>
10:18 (2)	6 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い姿勢で挨拶ができるように、良い姿勢の児童を称賛する。</li> </ul>

		「どきどき」「びっくり」など気持ちを表す言葉を正しく使って、ゲームを通して感じた自分の気持ちを話す。
B	知	「どきどき(する)」「びっくり(した)」など、自分が感じた気持ちを表現する言葉や身振りが分かる。
	技	ゲームを通して感じたこととを、気持ちを表す言葉を正しく使って話したり、身振りで表現したりする。
	思 判 表	ゲームを通して、教師や友達に自分から話したり、やり取りしたりしようとする。
C	知	「緊張する」「びっくりした」など、自分の気持ちに合う言葉が分かり、使うことができる。
	技	ゲームをしたり、友達の様子を見たりして感じたことを、気持ちを表す言葉を使って話す。
	思 判 表	ゲームを通して、自分から友達に自分の気持ちを伝えたり、やり取りしようとする。
	主	ゲームをしたり、友達の様子を見たりして感じたことを、気持ちを表す言葉を使って伝える。教師や友達に伝える。

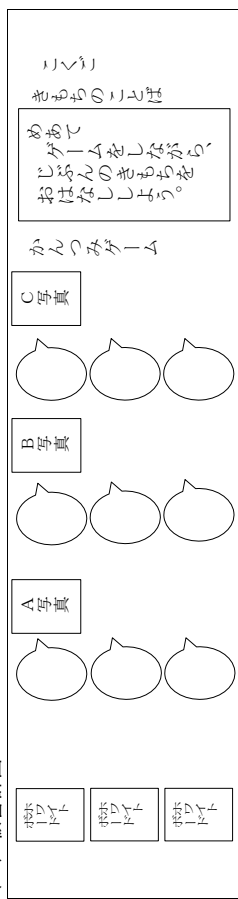
・自分の気持ちを簡単な言葉と身振りに使って表現する。身振りや表情による表現が豊かである。  
・言葉の意味や使い方が曖昧な言葉も多いが、繰り返して学習することで理解が図られる。  
・気持ちを表す言葉については、友達が話す様子を知り、友達が話さなかったりして、自分から使おうとする姿が増えてきている。

・自分の気持ちを簡単な言葉で表現する。語彙が増え、表現の幅が広がってきている。友達や大人とのやり取りも活発になってきている。  
・気持ちを表す言葉については曖昧な言葉もあるが、意味や使い方が分かるのと自分の気持ちに合った言葉を選んで話すことができる。

(4) 配置図



(5) 板書計画



(6) 評価の観点

- (児童) ・ゲームを通して感じたことを、気持ちを表す言葉や身振りをを用いて教師や友達に伝えることができたか。
- (教師) ・児童が活動を通して感じたことを、気持ちを表す言葉を用いて表現するための手立てや教材適切であったか。
- ・児童が「どきどき(する)」「びっくり(した)」など様々な気持ちを感じることができようような活動の設定ができていたか。

# 国語科で学んだことを活用して学習に取り組む姿（対象児童：小学部 2年 A）

実態

目指す姿

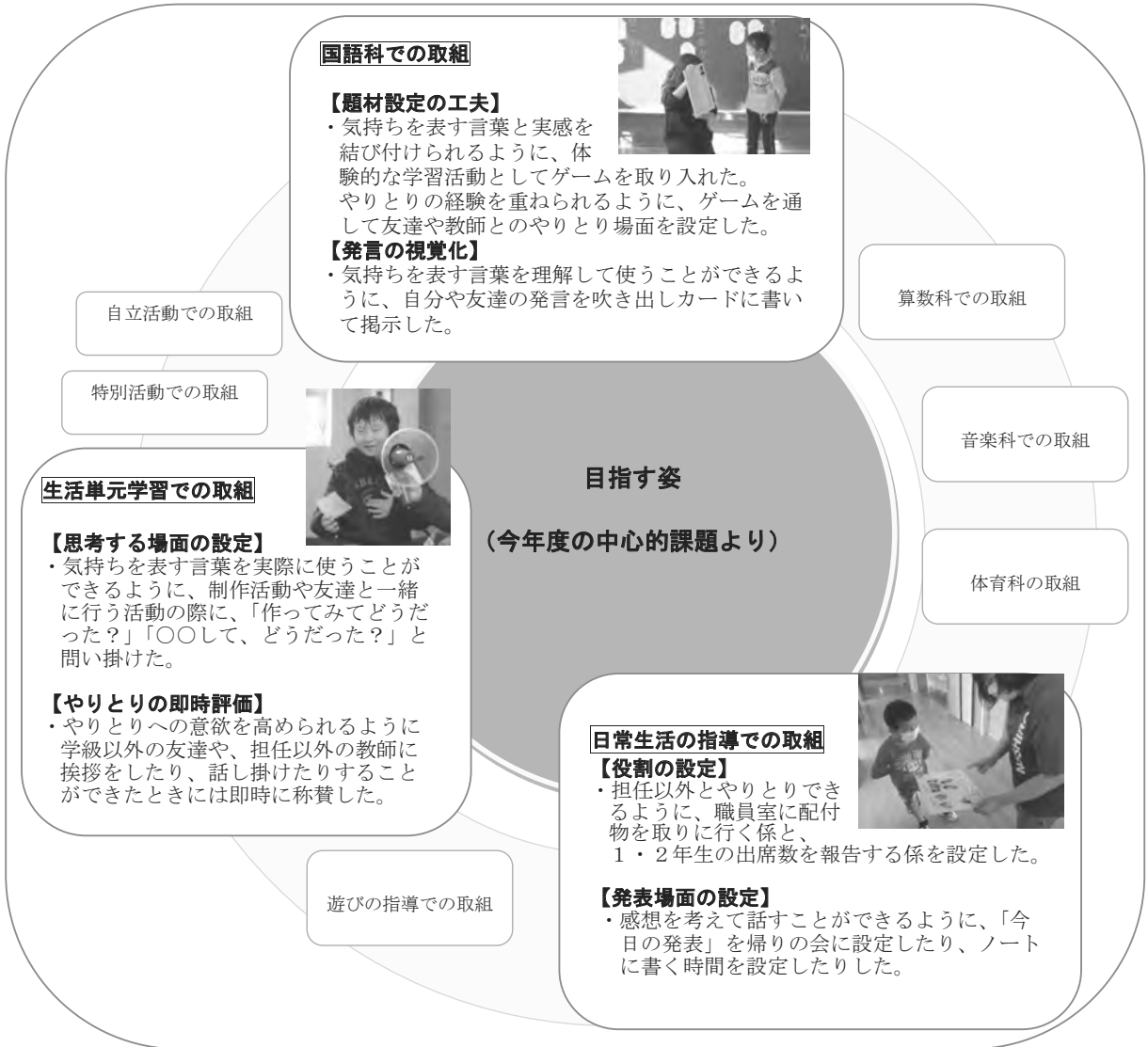
学んだことをかすための指導内容・方法の工夫（主な取組）

変容

今後の取組

- ・発表場面で挙手することが増えてきた。「〇〇（学習名）を頑張りました」と定型文で話すことが多い。
- ・担任などの慣れた相手には自分から話し掛けたり、二語文程度のやりとりをしたりできるが、それ以外の相手には「うん」程度の返答が多い。
- ・語彙がまだ少なく、言葉を聞いただけではイメージすることが難しい。

自分からやりとりできる相手を増やしたり、いろいろな話し方を覚えてやりとりしたりする。



- ・言葉を使ったやりとりへの意欲が高まり、学級の友達や担任以外の教師に自分から「おはようございます」「お疲れさまです」と挨拶することができるようになった。また、自分から話し掛けたり、相手からの問い掛けに対して「〇〇したよ」「〇〇だからお休みです」など考えて返答したりする様子が見られるようになった。
- ・帰りの会や学習の振り返りで感想を発表する場面で、「算数でメダルをもらってうれしかったです」など、「楽しかった」「うれしかった」「どきどきした」の気持ちを表す言葉を使って発表できた。

- ・国語科で使っている表情のシンボルマークを他場面で活用するまで至らなかった。言葉とそのイメージを結び付けることが苦手な児童であるため、視覚的な手掛かりとなるものの活用を検討する必要がある。
- ・児童の実態を踏まえ、次に身に付けてほしい言葉ややりとりの仕方を具体的に考え、今後も継続して指導にあたる必要がある。

## Ⅱ 各学部・寄宿舍の研究

### 中学部



# 中学部の実践 ～保健体育科の取組を通して

## 1 研究対象教科の設定理由

中学部では、昨年度「保健体育科」を取り上げ、「主体的・対話的・深い学び」の視点で授業づくりを行うことで、生徒の授業に取り組む姿勢や友達同士の認め合い等、変容が見られた。

今年度は、新1年生15名が入学し、生徒の約半数が入れ替わった。目指す生徒像として、体力の向上を図りたい、集団において自分の思いや考えを伝える力を高めたい、集団の決まりを遵守する態度を身に着けたい、自信を高めたい等が、年度当初に学部職員から挙げられた。そこで、昨年度の成果を生かし中学部の生徒を一つの学習集団として捉え、生徒同士の学び合いを通じて目指す生徒像が実現できると考え、今年度も保健体育科を取り上げることとした。

## 令和2年度 保健体育科を通して目指す姿

今年度の生徒の実態を基にして、昨年度の研究成果や学部目標等から、以下の「令和2年度保健体育科を通して目指す姿」を設定し、授業実践を行った。



「楽しみながら活動し、技術・体力の向上を目指す」  
「健康で安全な生活を送るための態度を培う」  
「体を動かすことを通して、集団で生活する力を付ける」

### 集団で生活する力とは

- ・ 思いや考えを伝える力を学校生活全般で発揮する力
- ・ 規則や約束を守る態度

## 2 授業改善の工夫と生徒の様子

### 単元名「のしろトトメキニコリンピック2020 ～空手道の形（かた）に挑戦しよう～」

#### 単元の要旨・特徴

研究対象である保健体育科は学部合同で行っており、男子18名、女子14名計32名で構成されている。生徒の実態としては、知的障害のある生徒、身体の動きに制限があり、日常生活全般で車椅子を使用している生徒、気持ちのコントロールに困難があり集団参加に課題がある生徒がいる。

これまでの学習で、ルールや自分の目標を意識しながら体を動かすことを好む生徒が増えた。また、友達を認め、自分の考えを周囲に伝えようとする生徒が増えてきた。一方で、運動・体力不足な面や「する・見る・知る」といった学習場面の切り替え、お互いの考えを伝え合いながら集団活動すること等に課題が見られる。

本単元で扱う空手道は、個人の体力に合わせてながらバランスよく体力の向上を図ることができる。また、人格の完成を目的として礼節を重んじる武道であり、相手への思いやりの気持ちを高めながら活動へ向かう態度が身に付けられる。さらには、直接的な身体接触がないため男女一緒に教習でき、感染症対策の観点からも安心して取り組むことができる。

授業の展開として、前半は基本となる技の練習や審査、後半はグループ毎に形（かた）づくりの練習をする。自分自身の課題を意識した練習や、集団演武の形をつくっていく過程で、思考を伝え合う活動を通して、武道の楽しさを感じ、将来に向けた体力向上や体育的な態度の育成ができると考え、本単元を設定した。



(1) 指導計画の改善 (生徒が分かった、できたを実感できる単元構想における取組)  
 〈従来の単元設定例〉

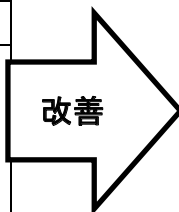
次	学習活動	時数
一	特総体の競技や種目に挑戦しよう	10

問題点

- ① 題材ごとの学習が単発になりがちである
- ② 活動内容に生徒を合わせることが多く、生徒のめあてや学習のねらいが曖昧である
- ③ グループとしての意識をより高めたい



次	学習活動	時数
一	空手道のオリジナル形をつくろう  ○空手道の基本的な所作や礼儀体験 ○基本動作練習 ○オリジナル形づくり	4
二	オリジナル形を極めよう  ○空手道の基本的な所作や礼儀体験 ○基本動作練習 ○オリジナル形練習 ○オリジナル形発表 ○他グループ評価	6



〈検討後の単元設定〉

次	学習活動	時数
一	オリエンテーション  ○空手道の目的 ○学習計画 ○空手道の技・形演武	1
二	空手道の形をつくろう  ○空手道の基本的な所作 ○基本となる技の練習 ○グループでの形づくり ○演武の自己評価	8
三	形を発表しよう  ○形演武の練習 ○形発表 ○友達の演武の良い点発表	2

改善したポイント

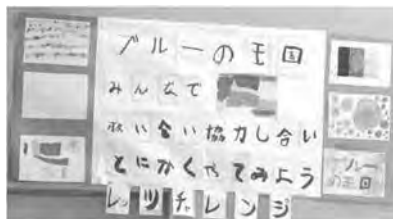
- ① 年間を貫く活動テーマの設定
- ② 生徒の課題に迫るため、年間を見渡した学習計画
- ③ 年間を通じてグループを固定化
- ④ 「分かった、できた」を実感するための発表会の設定

問題点

- ④ 自己評価の機会が設定されていない



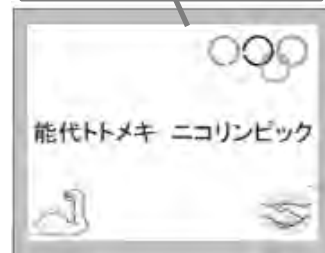
グループを意識して活動に取り組めるように、国(グループ)名、国旗、スローガンを制作した



### 〈改善ポイント① 年間を貫く活動テーマの設定〉

- ・今年度はコロナ禍のため、予定していた体育的行事が中止になった。そこで、生徒が目的を共有し、体育的活動に取り組めるよう、年間の保健体育科を「のしろトメキニコリンピック」とし、年間を通して生徒を三つの集団(グループ)に分け、生徒同士が各競技に取り組んだ。

大会名を生徒が考案



生徒の意見を取り入れた競技

- ↓
- ◎年度当初「のしろトメキニコリンピック」で行う競技について、生徒に挑戦したい競技の希望や意見を聞いた。生徒の意見が学習内容に反映されたことで意欲がより高まった。

### 〈改善ポイント② 生徒の課題に迫るため、年間を見渡した学習計画〉

- ・生徒の意見を参考にしながら「保健体育科を通して目指す姿」が実現できるかを検討し、年間の学習計画を設定した。

- ↓
- ◎武道の精神が規則や約束を守る態度の育成に効果があると考え、「空手道」を取り上げることにした。黙想や心得の唱和などの活動場面では、気持ちを落ち着けて取り組む様子が見られた。

### 〈改善ポイント③ 年間を通じてグループを固定化〉

- ・保健体育科を通して目指す姿である“集団で生活する力を付ける”ために、集団の意識をより高めたいと考え、各生徒の体力やコミュニケーション能力等のバランスを考慮してグループのメンバーを決め、年間を通じて固定した。また、リーダーとして成長を期待する生徒を各グループに配置した。

- ↓
- ◎年間を通して三つの集団で活動することで、友達のよさや頑張りに気づき、応援し合う、言葉を掛け合う、協力する等の様子が見られるようになった。また、生徒からの発言が増え、ミーティングの質的な変化が表れてきた。
  - ◎学習を重ねることで、リーダーとなった生徒が“自分からメンバーに言葉を掛ける”“会を進行する”等の活躍する様子が多く見られるようになった。また、保健体育科の学習以外でもリーダーに立候補するなど、自信の高まりが様々な場面で見られるようになった。



【生徒が進めるミーティング】

### 〈改善ポイント④ 「分かった、できた」を実感するための、発表会の設定〉

- ・「分かったこと」や「できたこと」を実感できるように、単元のまとめとして、各グループの演武を見合ったり、友達の演武のよいところを見付けたりする活動を設定した。

- ↓
- ◎演武の発表に向けた練習が、活動に対するモチベーションになった。
  - ◎友達や教師から演武のよいところを伝えてもらった生徒は、これまで練習してきたことに自信を高めた様子だった。
  - ◎単元のまとめに行った形の発表会では、予め評価のポイントを示すことで、自分や友達のよいところに気付く様子が見られた。



【単元のまとめに発表会を実施】

(2) 学習過程の改善（生徒が分かった、できたを実感できる授業づくりにおける取組）  
 〈従来の学習過程例〉

時間(分)	学習過程
15	1 始めの会
10	チャレンジ1 ※全体 2 基本練習
25	チャレンジ2 ※各グループ 3 オリジナル形づくり (1) 自分で考える (2) グループで考える
20	4 ミニ発表会 (1) グループごとに発表 (2) 振り返り
5	5 終わりの会



〈検討後の学習過程〉

時間(分)	学習過程
10	ランニング、準備体操 1 始めの会
20	チャレンジ1 ※全体 2 基本練習 (1) 正拳突き、前蹴り、 上げ受け (2) 審査
25	チャレンジ2 ※各グループ 3 グループの形づくり・練習 (1) これまでの形の確認 (2) 形づくり (3) 形練習
15	4 形演武の振り返り ・動画での自分の演武の評価 ・グループ内での共有
5	5 終わりの会

- 問題点
- ① 生徒の実態に応じて保健体育科のねらいを達成する学習内容を検討する必要がある
  - ② 生徒個々の目標を達成するため、個に応じた配慮をする必要がある
  - ③ TT(チームティーチング)の連携や役割分担
  - ④ 自分の学びを振り返る場面がない

- 改善したポイント
- ① 空手の技術を高める、保健体育科としての内容と各活動時間の見直し
  - ② グループや生徒に合わせた配慮や工夫
  - ③ より学びが深まるようなTT(チームティーチング)の動きや働き掛けの工夫
  - ④ 映像での振り返りや、自己評価する活動を設定

〈改善ポイント① 空手の技術を高めるため、保健体育科としての内容と各活動時間の見直し〉

・上達のために意識すべきポイントが分かるように、ポイントを三つに絞った。ポイントを体感として意識できるよう新聞紙を用いる等の工夫も併せて行った。また改善後は、基本練習の時間を長くし、ポイントを押さえて演武できているか教師が審査する活動を設けた。チャレンジ2でも練習時間を設け、話し合いに偏らず、体を動かしながら形を考えたり覚えたりできるように改善した。



- ◎練習時間を長くしたことで、前時までの内容を振り返りながら、じっくりと三つのポイントや形を再確認することができた。また、運動量の確保につながった。
- ◎審査がモチベーションとなり、自分の技術を高めるために、より真剣に練習に取り組む様子が見られた。
- ◎グループミーティングで、やり取りする経験を積むことができた。
- ◎体力トレーニングでも取り組み、技の精度を高めることができた。



【チャレンジ1での審査の様子】

## 〈改善ポイント② グループや生徒に合わせた配慮や工夫〉

- ・チャレンジ2では、それぞれのグループの個性に合わせた進行ができるように大まかな活動内容のみ設定し、各グループで形づくりと練習に取り組んだ。また、それぞれの課題に迫った指導ができるように、生徒に応じた配慮や、補助具の作成・活用をした。



◎各グループで進行用の台本を準備したり、教師が進行役を務めたりする等、生徒の実態に合わせて形づくりを進めた。台本等があることで、自信をもって進行を務める様子が見られた。

◎演武の一連の流れをイメージできるように、タブレット端末で動作するアプリケーション「ロイロノート」を活用したり、選択しやすいように技の写真カードを準備したりした。ミーティングの道具として繰り返し活用することで、意見を出す生徒が増えた。

◎生徒の実態に応じた配慮や教材・教具の工夫をした。集団参加の難しい生徒には、形演武の演示や友達の演武の撮影係等、活躍の場を設けた。肢体不自由を有する生徒に対しては、自立活動での取組や外部専門家からの助言を生かした補助具を活用した。それぞれ、生き生きと活動する様子が見られた。



【ロイロ・ノートの活用】



【手を伸ばす目標を示す補助具】

## 〈改善ポイント③ 生徒の学びがより深まるようなTT(ティームティーチング)の動きや働きかけの工夫〉

- ・技のポイントを意識して基本動作を身に付けることができるように、チャレンジ1で、T2～4の演示を見て正しい動きを考える活動を取り入れた。
- ・T1が空手の有段者であることから、授業を通して本物に触れながら空手道を学ぶことができた。T1のよさを十分に活用できるよう、チャレンジ2では、T1が各グループを回り、求めに応じてグループで考えた形を演示したり、形のよい所や、よい演武のために意識すべきポイントを助言したりする等、アドバイザーとしての役割を担った。



◎三人の教師の演示を見て正しい演武を選択する活動では、教師がオーバーに演示することで、正しい演武に気付く生徒が増え、ポイントの大切さを再確認できた。

◎T1がアドバイザーという立場になることで、グループで形づくりに悩んだときに演武してもらい、自分たちの考えた形を客観的に見て考えることができた。

◎場面を捉えてT1がアドバイスや演示をすることで、口頭でのやり取りだけでなく、体を動かしながらより良い形や演武について考える等、生徒同士のやり取りが活発化する様子が見られた。



【正しい演武の選択場面】

## 〈改善ポイント④ 分かったこと、できたことを実感するための振り返りや、自己評価場面の設定〉

- ・自分の課題を考えたり、何ができるようになったか、どんな力が付いたかを振り返ったりするために、撮影した映像で自分の演武を振り返り、よくなった部分について考える機会を設定した。
- ・生徒の気づきを付箋に記入し、振り返りの際にグループ内で共有した。



◎振り返りとして映像を活用したことで、自分の動きを客観的に見ることができた。上手にできた技について気付いたり、次回気を付けたい点を教師と一緒に考えたりすることができた。

◎生徒の気づきや発言を付箋紙に残すことで、その後に自分の課題を思い出すきっかけになった。

### 3 実践の成果

今年度、中学部における主な実践は以下の通りである。

- ・指導計画：生徒の実態やコロナ禍による学習環境の変化を受けて、年間指導計画の見直しを図り、年間を通した「能代トトメキニコリンピック」を実施することとした。取り組む競技内容を、生徒の希望と、教師側の育てたい力や学ばせたい学習内容とを勘案して決定した。
- ・学習過程：生徒の技術や体力の向上を図るため、学習内容や取り組み時間、教師の働き掛け等を再検討した。空手道の数多くある技の中から、基本的な技や意識してほしいポイントをそれぞれ三つに絞って取り組むこととした。その上で、生徒が自分の体育的課題に気付いて練習に取り組み、学習を通して何が身に付いたかを実感するための手立てについても検討し、共通理解した。

これまでの実践から、生徒に以下の変容が見られた。

- ・「のしろトトメキニコリンピック」の競技内容やグループ名、スローガンなど、生徒の意見を取り入れて実践したことが、自分たちで活動をつくり上げている実感や、意欲の向上につながった。
- ・年間を通してグループを固定することで、メンバーの得意なこと等を理解して学ぶことができた。また、必要な場面で進んで友達のサポートをする、言葉を掛け合うなど、集団を意識した行動が様々な場面で見られるようになった。グループ内でお互いの意見を交換する経験が、友達のよさや考え方に気付くきっかけともなった。発言に消極的な生徒も、自分から挙手し発言する様子が見られた。
- ・演武する基本動作と技のポイントを絞り、意識すべき点を分かりやすくしたことや、毎回目標を設定し自己評価したことによって、自分の体育的課題に気づき、進んで練習するようになった。
- ・グループの「形」づくりでは、アプリケーション「ロイロノート」や、技の写真カードを活用しながら、意見を出し合う経験を積むことができた。活動を重ねることによって、消極的になりがちな生徒も、技の順番を考えたり、自分の動きを確認したりして、自分の意見を出せるようになってきた。これらの活用は、生徒の思考を深めるために有効であり、職員の指導力の一助ともなった。

保健体育科の授業改善と評価を繰り返す中で、職員にも以下のような変容が確認できた。

- ・空手道を題材として取り上げるに当たり、保健体育科を担当する職員の専門性が課題の一つであったが、全日本空手道連盟初段を有する教員が中心となり、基本動作の習得や礼儀など、空手道についての教材研究を重ねることで、空手道未経験職員の指導力が高まった。
- ・空手道を題材としたことで、運動の苦手な生徒も喜んで学習に向かうことができるようになった。生徒の実態に応じ、指導内容を工夫していくことの大切さを改めて確認することができた。

### 4 今後の取組

- ・生徒たちはグループ内で意見を出し合う経験を積み、自信を高めることができた。今後は、話し合いの方法を学べるように、目的や内容等を焦点化し、様々な場面でミーティング等での意見交換や、生徒同士でのやり取りの場を意識的に設ける。必要に応じて話型も教える。
- ・空手道の授業実践を年間指導計画に位置付け、次年度以降も実践を重ね、さらなる生徒の技術・体力の向上につなげる。(引継ぎ、指導計画案)
- ・生徒それぞれの中心的課題を、毎年確認する。また、各教科の目標、有効な手立て等を学部職員で共通理解する。

中学部 1～3年合同 保健体育科 学習指導案

日時 令和2年10月8日(火)13:10～14:25

場所 体育館

授業者 五十嵐俊輔 (T1) 大塚佳樹 (T2)  
 柿崎貴之 (T3) 安田幸道 (T4)  
 堀江奈美子 (T5) 南彩瑛 (T6)  
 佐藤明子 (T7) 島山千紗 (T8)  
 加藤美和子 (T9) 齋藤舞子 (T10)

1 単元名 のしろとトメキコリンピック2020 ～空手道の技に挑戦しよう～

2 単元の目標

知・技	空手道の基本となる技のポイントが分かり、実践する。
思・判・表	自分の考えを周囲に伝えながら形をつくったり演武したりする。
主	空手道の目的や礼節を意識しながら、自分から活動に向かう。

3 生徒と単元について

本学習グループは、1～3年生の男子18名、女子14名の計32名で構成されている。知的な遅れに加え、日常生活全般で車椅子を使用し身体動きの制限のある生徒や気持ちのコントロールに困難さがあり集団参加に課題がある生徒など実態差がある。これまでの保健体育科では、ベースボールなどの学習を経験した。体を動かすことを好む生徒が増え、ルールや自分の目標を意識しながら活動し、友達を認めたり、応援したり、自分の考えを周囲に伝えたりする生徒が増えた。しかし、運動・体力不足な面や「する・みる・知る」といった学習場面の切り替え、お互いの考えを伝え合いながら集団としてまとまって活動することなどに課題がある。

今年度の保健体育科では、生徒たちからのアイデアを取り入れ、「のしろとトメキコリンピック」というコンセプトで実践している。来年行われる東京オリンピック・パラリンピックを楽しみにし、年間を通して3つの国(グループ)対抗で生徒たちが挑戦してみたい種目に取り組んでいる。その中で、本単元では空手道を扱う。空手道は、4月から体力トレーニングで基本となる技に触れており、生徒たちにとって身近な種目である。また、空手道では特性の1つに、動きが左右対称で静と動や緩急があり、個人の体力に合わせながらバランスよく体力の向上を図ることができ、さらに、空手道は人格の完成を目的として礼節を重んじる武道である。相手を尊重する気持ちや自分を律する克己の心など伝統的な考え方を大切にしており、相手への思いやりの気持ちが高めながら活動へ向かう態度を身に付けられる。そして、本単元で扱う形は、正拳突き・前蹴り・上げ受けにより、仮想の相手と対峙して攻防し合うものである。自分の正しい動きを意識しながら周囲と動きをそろえたり、基本となる技を組み合わせてグループで形をつくったりする活動を設定でき、自分の体の使い方を意識しながら思考を伝え合う場面を設定することができる。本単元を通して、集団としての一体感を高めながら武道の楽しさを感じ、将来に向けた体力向上や体育的な態度の育成ができることを考えた。

指導に当たっては、以下の点に留意する。

- ・基本となる技のポイントが分かるように、「引き」「返し」「位置」の3点のポイントを設定し、それぞれを意識できるように帯や新聞紙等の教具を準備する。
- ・自分の思考を伝え合いながら形をつくって実践できるように、技カードやアプリケーション「ロイノート」を活用し、操作しながら考えられる活動を設定する。
- ・生徒が主体的に学習に向かえるように、空手道の心得や所作を段階的に伝え、リーダー役の生徒主体で行う場面を設定する。
- ・学んだことを実感できるように、自分たちの形演武をしている様子を撮影して、見ながらその日のポイントを振り返る活動を設定する。
- ・朝の体力トレーニング(週2回)で基本となる技について扱い、体力面と技能面、態度面について学びを深められるように内容を関連させながら実施する。

4 指導計画(総時数 11時間)

次	小単元名	活動内容	時数
一	オリエンテーション ～空手道とは～	・空手道の目的・学習計画 ・空手道の技・形演武	1時間
二	空手道の形をつくろう	・空手道の基本的な所作 ・基本となる技の練習(各技のポイント) ・形づくり ・演武の自己評価	8時間 (本時7・8時間)
三	形を発表しよう	・空手道の基本的な所作 ・形演武の練習 ・形発表、他グループ評価	2時間

5 本時の計画(総時数 11時間中の8・9時)

(1) 全体の目標	正しい手足の位置を意識し、基本となる技を実践する。
知・技	自分の考えを周囲に伝えながら形をつくって演武する。
思・判・表	正座や黙想などの所作や心得の復唱に自分から取り組む。
主	

(2) 個別の目標

氏名	本単元に関する生徒の実態と様子	単元の目標	本時の目標 (本時、特に達成したい1観点に絞る表記)
G	・体が動かすことが好きで、空手道にも楽しんで取り組んでいる。	・各技の名前を覚えて、正しい位置を意識しながら演武をする。	・正しい形の動きを覚えて、ポイントを押さえながら演武をする。
K	・できない動きや苦手な運動になると、友達とふざけたり表情が曇ったりすることがある。	・自分の考えを友達に伝えながら、グループの形づくりをする。	・技
K		・学習活動の流れが分かり、自分から空手道の所作に取り組む。	

G K K	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことは好むが動きは見たままの模倣にとどまっている。</li> <li>・集中力が散漫になることが多い。</li> <li>・体力トレーニングで繰り返して実践してきたことで、基本となる技については模倣しながら実践することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントが分かり正しい動きを意識しながら実践する。</li> <li>・自分の考えを仲間と伝え、一緒に形をつくって演武をする。</li> <li>・教師の演示や友達の様子を見ながら、空手道の基本的な所作に自分から取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の使い方にぎこちない面はあるが、空手道の時間には楽しんで取り組んでいる。</li> <li>・周囲の動きを見て、まねをして覚えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントを覚え、正しい動きを意識しながら取り組む。</li> <li>・技カードを選んで自分の考えを友達に伝えながら、グループの形をつくる。</li> <li>・教師や友達の様子を見ながら、自分から正座や黙想に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの技のポイントを覚え、正しい位置を意識しながら取り組む。</li> </ul>
G K K	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模倣が得意で、空手道の動きも覚えるのが早い。</li> <li>・技練習には楽しく取り組んでいるが、写真やビデオを撮られることに抵抗があるため、チャレンジⅡの活動では、タブレット係を担当している。</li> <li>・自信のない活動や難易度の低い活動に取り組むことが苦手であり、集団から逸脱することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントを理解し正しい動きができるように考えながら取り組む。</li> <li>・友達の考えを受け入れながら、「ロイノノート」を操作して、グループの形をつくる。</li> <li>・教師の演示を見て、自分から空手道の基本的な所作に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・格闘の動きが好きで、空手道を楽しんでいる。</li> <li>・足首の固さがあり、前蹴りの動きは確認しながら取り組んでいる。</li> <li>・学習時間後半になると気持ちが続かなくなり、(加・獅)の動きをまねることが多くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントを覚え、正しい動きを意識しながら取り組む。</li> <li>・自分の考えを友達に伝えながら、グループの形をつくる。</li> <li>・安全に気を付けて空手道の動きに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>

G K K	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と運動することが好きで、空手道にも熱心に取り組んでいる。</li> <li>・体を動かすことが得意ではないが、空手道の練習に、真剣に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の名前と動作を一致させて正しく覚える。</li> <li>・形と形のつなぎの動作を考える。</li> <li>・自分の考えた順番を意見として伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作の組み合わせを覚え、技を繰り返すように、友達と一緒に練習する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「引き」「返し」を意識して一つ一つの動作を確認する。</li> <li>・形の名前と動作を一致させて正しく覚える。</li> <li>・友達の動きを見て自分のスピードを調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「引き」「返し」の正しい動作を確認し、ポイントを押さえながら取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「引き」「返し」の正しい動作を確認し、ポイントを押さえながら取り組む。</li> </ul>
G K K	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月より体力トレーニングで取り組んでいる空手だが、本生徒は自立活動の時間設定となっているため参加していない。</li> <li>・そのため、空手道に関する興味関心は薄く、他生徒と比べて経験も浅い。</li> <li>・友達と同じように活動したい気持ちがある。空手道では上肢を使う技に焦点を当て、グループの友達と一緒に取り組むことを楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正拳突きポイントが分かり、可能な可動域で腕を前に出す。</li> <li>・「ロイノノート」を活用しながら、自分の考えを友達や教師に伝えて一緒に形をつくって演武する。</li> <li>・安全に気を付けながらグループの友達と協力し合い楽しんで空手に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正拳突きのポイントを知り、形に近い動きで腕を前に突き出す。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体が動かすことが好きで、保健体育の時間を楽しみにしている。</li> <li>・空手道の一つ一つの動作にはまだ自信がないが、友達と一緒に活動することを楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正拳突きや前蹴りなど技の正しい動作を覚える。</li> <li>・友達の動きをよく見て自分の動きを確認する。</li> <li>・形の組み合わせについて、自分の考えを周囲に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の正しいポイントを知り、技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き終わりの拳の位置や蹴り終わりの足の位置を意識して練習に取り組む。</li> </ul>



天下無双	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の動きをまねして正座や黙想、技や形を楽しむ様子がえられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい手の位置で正拳突きをする。</li> <li>掛け声を聞いて技の動きを判断する。</li> <li>大きな声を出して技に取り組む。</li> <li>空手道の技を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前と基本動作を一致させ、技のポイントを意識しながら形に取り組む。</li> </ul>
	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームリーダーとして、話し合いをまよめようとする意欲が見られる。</li> <li>正座や黙想など、友達の先になつて空手道に向かうことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演武する形の組み合わせを考える。</li> <li>空手道の目的を意識して活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前と動作を一致させて、その技のポイントを意識して形の順序を覚えていく。</li> </ul>
二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動では、その内容についてより良くなるための方法を考えたり、アイデアを出したりして、意欲的に活動に参加することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントを伝える。</li> <li>自分の考えを伝え、形をつくる。</li> <li>空手道の礼節を意識して活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前と基本動作を一致させて、順番をかめながら取り組む。</li> </ul>	
二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>演示を見ながら、基本技に取り組んでいる。</li> <li>引手が甘い、正中線からずれている等の細かい部分は意識できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名称を覚えてポイントを意識する。</li> <li>どの技を続けたいか意見を出す。</li> <li>ポイントに気を付けながら形に合う動きをしようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を言ったり、動きをまねたりして、掛け声に合わせて空手道を行うことができる。</li> </ul>	
二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>空手道の掛け声に反応して、手足を曲げ伸ばして技をまね、時間いっぱい空手道に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚える。</li> <li>友達の技や形をまねて動く。</li> <li>教師の演示を見本にして取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前に立つ友達の手本を見ながら、技の実践をする。</li> </ul>	
三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの友達の様子を見て、正拳突きや蹴りをまねしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を聞いて、正しく技を出す。</li> <li>掛け声に合わせて正拳突きや前蹴りする。</li> <li>教師の演示や友達の動きを見ながら、空手道の基本的な所作に自分から取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚える。</li> <li>グループの仲間や教師の演示をまねながら技に取り組む。</li> </ul>	

GKKK	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことを好む。独自の動きを考えて楽しんでる。</li> <li>自分なりのやり方で取り組むことを好み、周囲からのアドバイスを受け入れられないときがある。</li> <li>ランニングや準備運動には気持ちが向かわかないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚え、3ポイントを確認しながら取り組む。</li> <li>技カードを選んで自分の考えを友達に伝えながら、グループの形をつくる。</li> <li>教師の見本を見て、自分から正座や黙想に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントを覚え、友達や教師の動きを模倣しながら取り組む。</li> </ul>
	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は早退が続いており、体育に参加できない日が多い。</li> <li>球技やダンスなどをして体を動かすことが好む。</li> <li>リーダーの役割に頑張つて取り組む様子がみられるが、グループのメンバーの反応により気持ちが沈むこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前やポイントを覚え、正しい動きを意識しながら取り組む。</li> <li>友達と考えを出し合いながら、「ロイロノート」を操作し、グループの形をつくる。</li> <li>教師の演示を見て、自分から正座や黙想に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい技の動きを覚え、手足の位置を意識しながら取り組む。</li> </ul>
天下無双	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>正座や黙想を行ったり、技をまねたりしながら、空手道を楽しんでいる様子がえられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚え、実践する。</li> <li>教師の掛け声に合わせて動きを判断する。</li> <li>大きな声で掛け声を言いつつ動く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前と基本動作を一致させ、掛け声が続いて技を行う。</li> </ul>
一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことに苦手意識をもっており、授業に参加できないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名称を覚える。</li> <li>形をつくるための技のポイントが分かる。</li> <li>教師の誘い掛けを受けて空手道の所作や技の一部に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の基本動作を覚え、グループの仲間や教師の演示をまねながら技に取り組む。</li> </ul>	
一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>手足を伸ばし、ポイントを意識しながら取り組んでいる。</li> <li>正座や黙想に意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい技ができるようにポイントを意識しながら形をつくる。</li> <li>掛け声に合わせて正拳突きや蹴りする。</li> <li>声を出しながら技に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の順番やポイントを意識しながら形づくりに取り組む。</li> </ul>	

天下無双	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の使い方にぎこちない面はあるが、空手道の時間は楽しんで取り組んでいる。</li> <li>周囲の動きを見て、まねをして覚えようとしている。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイント覚え、正しい位置を認識しながら取り組む。</li> <li>技カードを選んで自分の考えを友達に伝えながら、グループの形づくりに参加する。</li> <li>教師や友達の様子を見ながら、自分から正座や黙想に取り組む。</li> </ul> <p>思判表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントを覚え、正しい位置を認識しながら実践する。</li> <li>自分の考えを伝えたり、友達の見えながらグループの形をつくる。</li> <li>空手道の目的を意識し自分から礼節に気を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>突きの高さや、引手の正しい位置等の技のポイントを覚えて、高さを意識しながら取り組む。</li> </ul>	<p>聴</p> <p>知・技</p>
	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の手本の掛け声に合わせて左右の手を交互に動かす、まねしようとしている。</li> <li>前蹴りの際、足は上から下へ、掛け声に合わせて体に力を入れようとしている。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの形の順番を覚え、順番に合わせて技を出す。</li> <li>正拳突きや前蹴りの号令に合わせて、それぞれの技を出そうとする。</li> <li>技カードを操作しながら自分で考えた順番を周囲に伝え、形づくりに参加する。</li> </ul> <p>思判表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前とポイント覚え、より近付けられるように実践する。</li> <li>技の写真を手掛かりとしながら、覚えたい技を友達のアドバイスをもらって実践する。</li> <li>友達とのやり取りや見てもう楽しさを感じながら空手道を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の掛け声に合わせて、技に合った体の部位を動かす。</li> </ul>	<p>聴</p> <p>知・技</p>
ブルーの王国	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことが好きで、空手道にも意欲的に取り組んでいるが、少し照れが見られる。</li> <li>教師の演習を見本にして技に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントを意識しながら実践する。</li> <li>自分の意見と友達の見えをすり合わせながら形をつくる。</li> <li>礼節を意識しながら自分から活動に向かう。</li> </ul> <p>思判表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚え、ポイントを意識しながら実践する。</li> <li>選択肢の中から自分の考えを選び、友達に伝える。</li> <li>教師の演習を見ながら正座や黙想に自分から取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の順番を覚え、正拳突きや前蹴りの位置に気を付けながら取り組む。</li> </ul>	<p>聴</p> <p>知・技</p>
	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>手本となる人の動きをまね、空手道の技に取り組んでいる。</li> <li>まねて取り組むという分りやすさが安心感となっていて、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントを知り、実践する。</li> <li>拳の高さ、手の返しなどが演習と比べてどうだったかを、教師と一緒に考える。</li> <li>自分から声も出しながら、楽しく空手道に取り組む。</li> </ul> <p>思判表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントに気を付けながら実践する。</li> <li>選択肢の中から選んで自分の考えを伝えたり、友達の話の聞き取りをする。</li> <li>正座や黙想など教師の演習を見ながら自分から取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正拳突きや引きの腕の高さや前蹴りの足の高さに気を付けながら取り組む。</li> </ul>	<p>聴</p> <p>知・技</p>

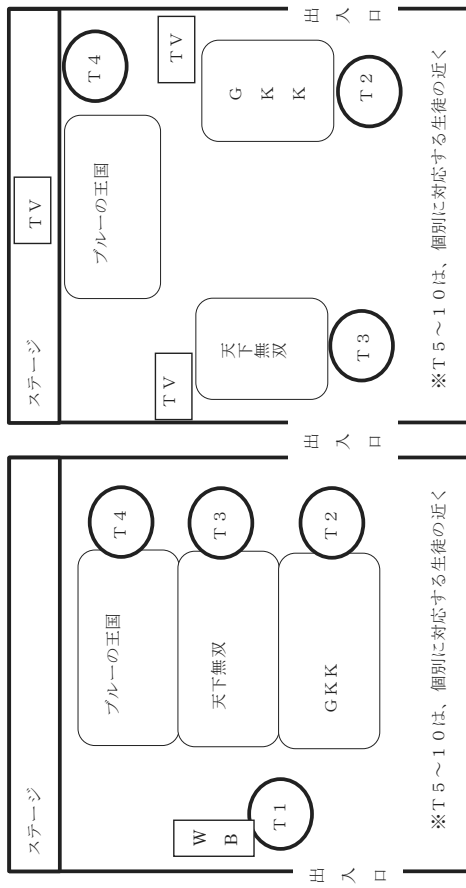
一年	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことが好きで、教師の演習を見ながら意欲的に取り組んでいる。</li> <li>大きな声を出す経験が少なく、掛け声などは、促されてから出すことが多い。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚え、正しい動きを意識しながら実践する。</li> <li>自分の考えを伝えたり、友達の見えながらグループの形をつくる。</li> <li>空手道の目的を意識し自分から礼節に気を付ける。</li> </ul> <p>思判表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚え、正しい動きを意識しながら実践する。</li> <li>技の写真を手掛かりとしながら、覚えたい技を友達のアドバイスをもらって実践する。</li> <li>友達とのやり取りや見てもう楽しさを感じながら空手道を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腕や足の位置に気を付けながら取り組む。</li> </ul>	<p>聴</p> <p>知・技</p>
	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>勢いよく技に取り組むあまり、前のめりになってしまいうこともありますが、乗しそうに空手道に取り組んでいる。</li> <li>誰かに頑張っている様子を見てほしくて、「○○さん、見て」と言いながら取り組んでいる。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前とポイント覚え、より近付けられるように実践する。</li> <li>技の写真を手掛かりとしながら、覚えたい技を友達のアドバイスをもらって実践する。</li> <li>友達とのやり取りや見てもう楽しさを感じながら空手道を行う。</li> </ul> <p>思判表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技の名前を覚え、ポイントを意識しながら実践する。</li> <li>選択肢の中から自分の考えを選び、友達に伝える。</li> <li>教師の演習を見ながら正座や黙想に自分から取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>突きの腕の位置に気を付けながら取り組む。</li> </ul>	<p>聴</p> <p>知・技</p>
二年	T	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちによって左右されるが、体を動かすことが好き。空手道にも友達と一緒に取り組んでいる。</li> <li>教師の演習を参考にしながらそれぞれの動きを模倣することができる。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントに気を付けながら実践する。</li> <li>選択肢の中から選んで自分の考えを伝えたり、友達の話の聞き取りをする。</li> <li>正座や黙想など教師の演習を見ながら自分から取り組む。</li> </ul> <p>思判表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントに気を付けながら実践する。</li> <li>選択肢の中から選んで自分の考えを伝えたり、友達の話の聞き取りをする。</li> <li>正座や黙想など教師の演習を見ながら自分から取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正拳突きや引きの腕の高さや前蹴りの足の高さに気を付けながら取り組む。</li> </ul>	<p>聴</p> <p>知・技</p>
	10					

(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
13:10 (10)	ランニング、準備体操をする ※全体 1 始めの会をする (1) 挨拶をする (2) 教師の話を書く ・学習の流れ ・めあて 「位置」に気を付けて、技をやってみよう ・空手道3つの心得	※技のポイントが意識しやすいようにグループごとの帯を用意し、教室で巻いて体育館に集合する。 ・けが防止のため、生徒には内履きを正しく履くように促す。 ・ランニングの開始をT1が合図する。個々の体力に合わせて実施できるように、必要に応じてペースについて言葉掛けをする。【T1～10】 ・生徒が主体的に学習に向かえるように、準備体操は(佐・久)に前を進めるように促す。また、正座、黙想、挨拶という流れを(佐・峻)と一緒に全体の前で演示する。【T1】 ・T5～10は、個別で担当の生徒への支援を行う。
13:20 (20)	チャレンジ1※全体 2 基本練習をする (1) 正拳突き、前蹴り、上げ受けを練習する (2) 審査を受ける	・めあてを意識できるように、T2～4が様々な高さの技を演じた上でT1が正しい手足の位置を伝える。 ・技の手足の位置が分かるように、正しい位置に新聞紙を置いたり、位置を修正する時間を設定したりする。 ・めあての到達度分がかり、意欲を高めたり、改善したりできるように、T2～4は、めあての到達度を記録し全体に伝える。
13:40 (25)	チャレンジ2※各グループ 3 「国(グループ)」の形をつくり・練習をする ～これまでの9挙動に2挙動を加える～ (1) これまでの形の確認をする (2) 形つくりをする (3) 形練習をする 4 形演武の振り返りをする	・各グループのリーダーが中心になって形つくりを進められるように、進行の補助や助言をする。【T2～4】 ・友達同士で意見を出し合いながら形をつくれるよう、技のイラストカードやアプリケーション「ロイノート」を用意する。 ・技の位置を意識しながら形の練習ができるように、形の練習の際は、グループ内で半数ずつ演武を撮影して手足の位置の正しさについて尋ねる。【T2～4】 ・形演武における自分の技の手足の位置が正しかったか評価できるように、撮影した動画を見せながらプリントに記入できるように促す。その際、生徒の気付きを付箋に記入し、グループ内で共有する。【T2～4】
14:05 (15)	5 終わりの会をする ※全体 (1) 教師の話を書く (2) 挨拶をする	・学習の目標を意識し、次時への期待感を高められるように、目標に関連した全体の様子や特に良かった生徒の様子を全体に伝えて称賛する。【T1】 ・正座、黙想、挨拶という流れを(佐・峻)と一緒に全体の前で演示する。【T1】

学年	知・技	主	知・技	主	知・技	主	知・技	主
二年	・ダンスが好きで、よさこいなどリズムに合わせて楽しく踊る。 ・膝の曲げ伸ばしやボディバランスが不十分である。 ・空手道には、教師の演示を模倣し、楽しんで参加できている。	・演示を手本にして、正しい位置に正拳突きをしたり、前蹴りをする。 ・イメージに合わせて動きを考え、教師や友達と意見交換しながら形を作り上げる。 ・教師の演示をよく見て自分から空手道の基本的所作に取り組む。	・正拳突きや前蹴りの位置、引手、取り組む。	・音楽に合わせてダンスをすることが好きである。 ・空手道には、教師の演示を手本に意欲的に取り組んでいる。 ・模倣や複雑な動きを覚えることが得意である。	・技のポイントが分かり正しい動きを意識して取り組む。 ・イメージに合わせて動きを考え、友達や教師に伝えながら一緒に形をつくって演武する。 ・周囲の動きに合わせて、空手道の基本的所作に取り組む。	・突きや蹴りの位置、引手の位置を覚え、掛け声に合わせて取り組む。	・ダンスが好きな活動であるが、様々なアニメの動きと結び付け、興味をもって取り組んでいる。 ・体の使い方がぎこちなく、体勢が崩れることもあるが、形の練習には意欲的である。	・3つのポイントを意識して取り組む。 ・正しい姿勢や構えを見せたり、友達にポイントを伝えたりする。 ・大きな声で号令を掛けたり、自ら手本となったりを示したりする。
三年	・空手道に興味を示し、教師の演示の際には、毎回意欲的に相手役を買って出ている。 ・号令係としても、毎時間気合の入った声で挨拶をしている。	・正拳突きや前蹴りの位置、手向きを意識しながら取り組む。	・正拳突きの目標とする場所を知り、その場所を意識して拳を突き出す。	・空手道は初めて取り組む活動であるが、様々なアニメの動きと結び付け、興味をもって取り組んでいる。 ・体の使い方がぎこちなく、体勢が崩れることもあるが、形の練習には意欲的である。	・姿勢を正し、正拳突きや前蹴りの位置、手向きを意識しながら取り組む。	・空手道に興味を示し、教師の演示の際には、毎回意欲的に相手役を買って出ている。 ・号令係としても、毎時間気合の入った声で挨拶をしている。		

(4) 配置図



学習活動1、2、5

学習活動3、4

(5) 板書計画

<p>のしろトトメキニコリンピック2020～空手道の技に挑戦しよう</p> <p>学習活動 ランニング、準備体操 1 始めの会 挨拶、教師の話 2 チャレンジ1 基本練習 審査 3 チャレンジ2 形づくり 振り返り 4 終わりの会 教師の話 挨拶</p>	<p>めあて 『位置』に気を付けて、技をやってみよう</p>	<p>空手道の技 ① 正拳突き ④ 厚真 ② 前蹴り ⑤ 厚真 ③ 上げ受け ⑥ 厚真</p>	<p>枝のポイント ① 引き ② 返し ③ 位置</p>	<p>学習予定 形をつくろう 9月15日(火) 9月29日(火) 10月6日(火) 10月8日(木) 形を発表しよう 10月13日(火)</p>	<p>空手道の心得 一、人格完成に努めること 一、礼儀を重んずること 一、血気の勇気を養ふこと</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------------------------------	------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

(6) 評価の観点

- (生徒)
- ・正拳突きと前蹴りではみぞおちを意識し、上げ受けでは顔を意識して、それぞれの技に取り組むことができたか。
  - ・形に加えない技について、自分の考えを周囲に伝えながら演武できたか。
  - ・教師やリーダーの生徒の合図に合わせ、空手道の所作や心得の復唱に取り組めたか。
- (教師)
- ・正しい手足の位置を意識させるための言葉掛けや補助具等の支援は適切であったか。
  - ・生徒が自分の考えを周囲に伝えるための場面設定や補助具等の支援は適切であったか。
  - ・正座や黙想などの所作や心得の復唱に自分から取り組めるような合図や個々への支援は適切であったか。

## iOS アプリケーション「ロイロノート」について

### 1 本授業における ICT 活用について

体育科の研究授業では「空手道」を提示しました。活動として、いくつかの挙動を組み合わせ、一連の“形”をつくりました。

各グループで意見を出し合い、オリジナルな“形”をつくるために、iOS アプリケーション「ロイロノート（図1）」を使用し、撮影した挙動の動画を“カード”にしたものを組み合わせました。

アナログな写真カードとデジタルな「ロイロノート」を併用することで、成果が上がったと考えられます（写真1・2）



図1



写真1：生徒が液晶テレビで視聴した画像。



写真2：「ロイロノート」の操作画面。教師が撮影した動画が“カード”として準備されている。

### 2 「ロイロノート」の特徴

「ロイロノート」は、直感的に使えるタブレット用の授業支援アプリです。テキストや手書き文字、Web 検索や地図、写真、動画など様々な情報を“1枚のカード”として表示します（写真3）。カードをつなげることで、発表資料（プレゼンテーション資料）を作ることができます。

各カードを矢印線でつなげることで、発表する順番を決めることができます（図2）。自分の考える道筋がアプリ上に可視化されていくので、作業を進めながら考えをまとめることができます。



写真3



図2

### 3 さらに「ロイロノート」の活用

今回は教師が「ロイロノート」を使用して、空手の形を提示しました。児童生徒が直感的な操作で「ロイロノート」のカードを結び付けることが可能だと考えています。

また、様々な情報を扱うことができます。この「ロイロノート」の活用方法として次のようなものが考えられます。

- ・児童生徒が自分の思考を表現し、身近な人と考えを共有する。
- ・児童生徒のプレゼンテーション力を育成する。

# 保健体育科で学んだことを活用して学習に取り組む姿（対象生徒：中学部 1年 B）

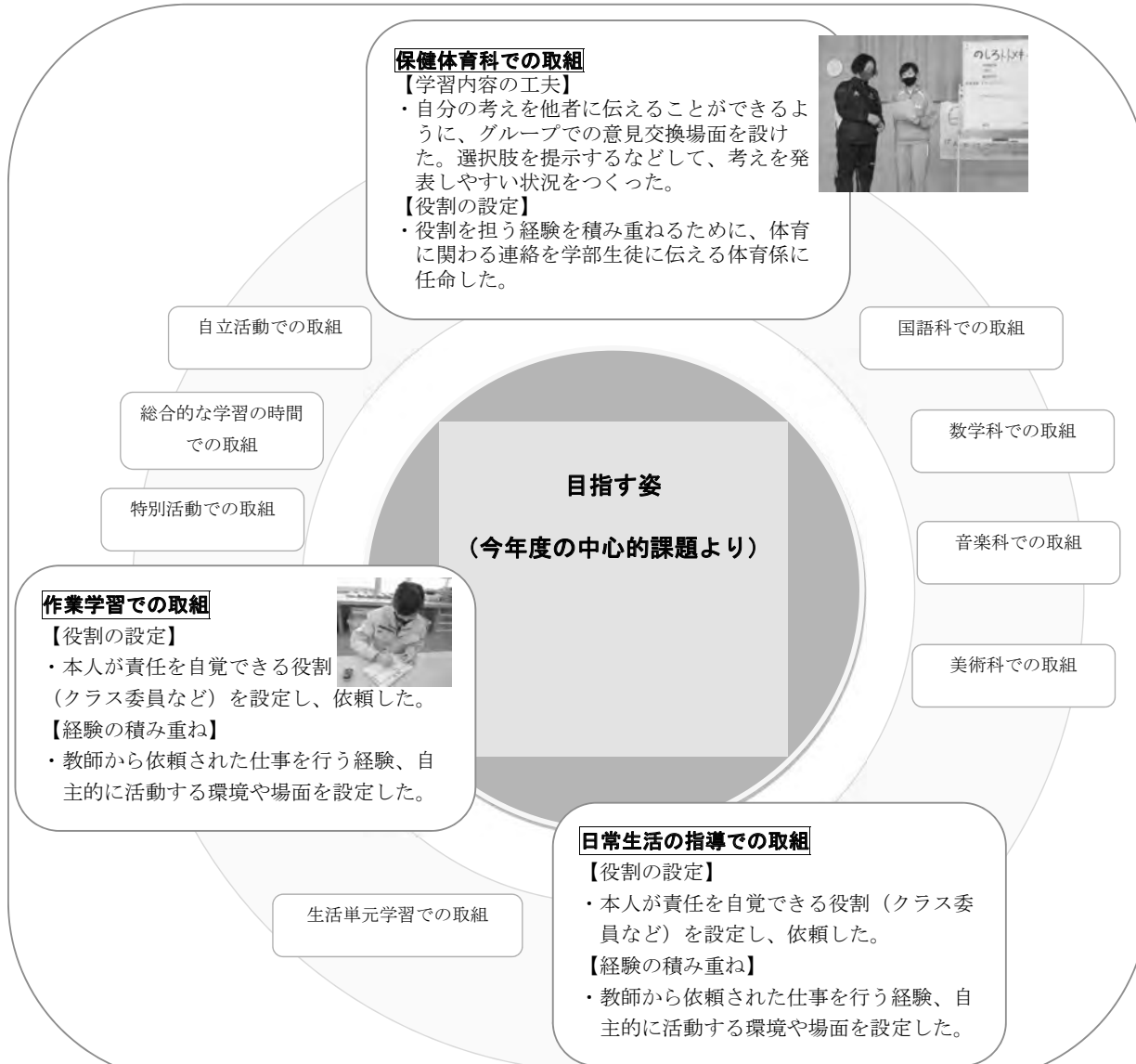
実態

- ・明るく朗らかな性格で、周囲の人と良好な関係を築いている。
- ・簡単な指示を理解して、活動や役割に取り組むことができる。
- ・気持ちの浮き沈みは少なく、助言や指摘も素直に受け止める。

目指す姿

活動内容を理解し、役割に関心と責任をもって、自分自身の力で考えて行動する。

学んだことを生かすための指導内容・方法の工夫（主な取組）



**保健体育科での取組**

**【学習内容の工夫】**

- ・自分の考えを他者に伝えることができるように、グループでの意見交換場面を設けた。選択肢を提示するなどして、考えを発表しやすい状況をつくった。

**【役割の設定】**

- ・役割を担う経験を積み重ねるために、体育に関わる連絡を学部生徒に伝える体育係に任命した。



**作業学習での取組**

**【役割の設定】**

- ・本人が責任を自覚できる役割（クラス委員など）を設定し、依頼した。

**【経験の積み重ね】**

- ・教師から依頼された仕事を行う経験、自主的に活動する環境や場面を設定した。



**日常生活の指導での取組**

**【役割の設定】**

- ・本人が責任を自覚できる役割（クラス委員など）を設定し、依頼した。

**【経験の積み重ね】**

- ・教師から依頼された仕事を行う経験、自主的に活動する環境や場面を設定した。

- ・役割を設けることで、活動内容等を教師に聞き、友達に伝える経験を重ねることができた。伝えるべき内容を整理したり、分からないことを質問したりする様子から、誰かに伝えるためには自分が理解していなくてはならないという気持ちをもって行動できていたと考える。
- ・役割を果たした達成感や感謝されること、自分の頑張りを認められる経験を積んだことにより、自信が高まったことで、恥ずかしがることなく、自分から発言をする、声の大きさや姿勢がよくなるなど、学習場面を限定せず、様々な場面で見られるようになった。またそれは周りの生徒にもよい影響を与えている。

- ・1年間における自分の成長に実感を持ち、物事に対しての積極性や主体性が高まってきているため、経験の場や役割に挑戦する状況の設定を継続する。
- ・自分で考えて判断、行動した成功体験を増やせるように、長期目標と段階的な短期目標を設定し、達成するための方法、期待する姿、取組に対する評価を繰り返し行う。
- ・本人の実感や自覚に結び付くように、即時評価だけでなく、出来事の記録や本人の感想文などを基に、経験の積み重ねを振り返り、次の目標を考える学習活動を設定する。

変容

今後の取組

# 保健体育科で学んだことを活用して学習に取り組む姿（対象生徒：中学部 2年 C）

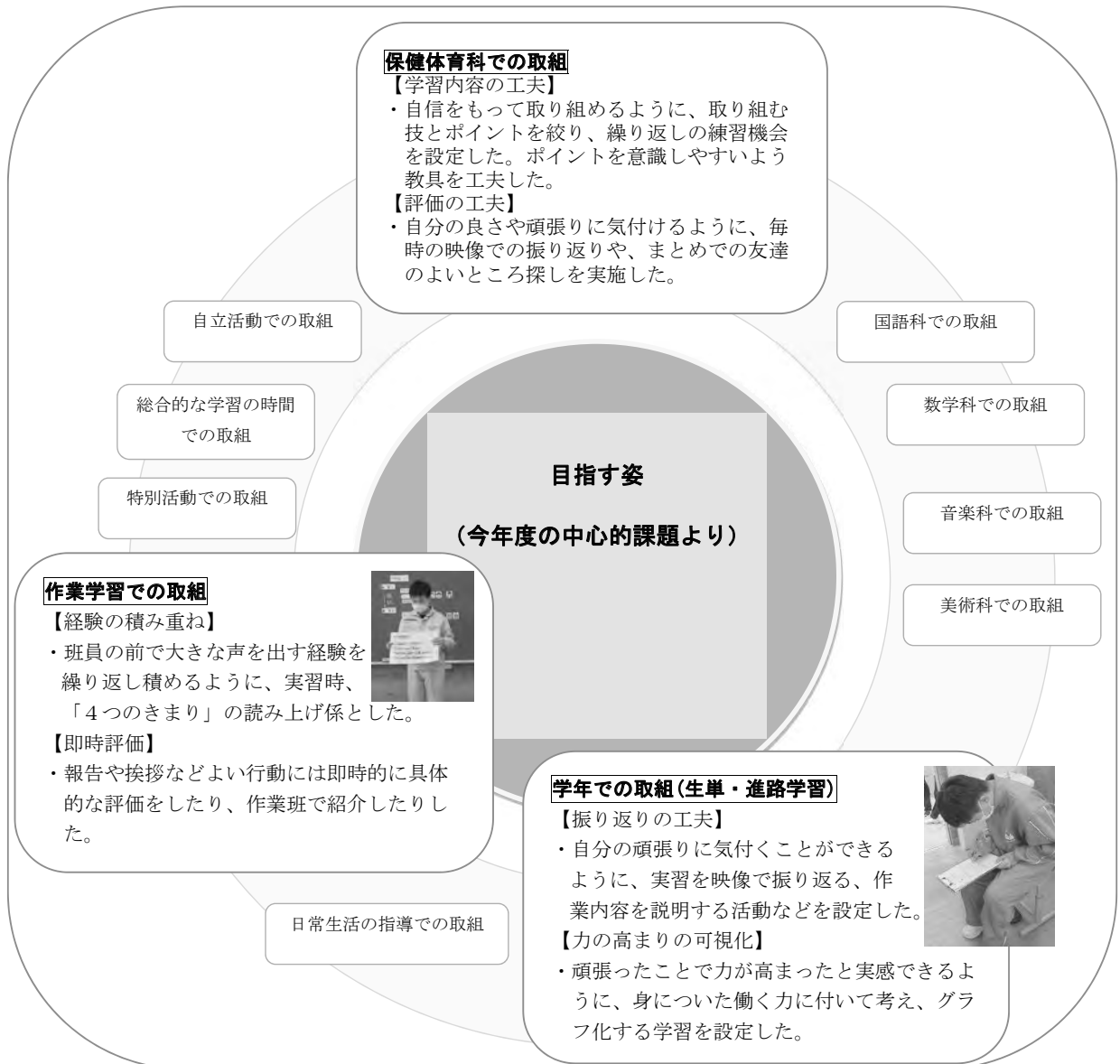
実態

- ・生活経験が少なく、何事にも消極的で、自分から進んで取り組もうとすることが少ない。
- ・簡単な指示を理解して行動できるが、自分で考えて意見を出すことに苦手意識をもっている。
- ・担任に困り感を伝えることができるようになってきた。

目指す姿

自分の力でできること、得意なことを見つけて、自信をもって取り組む。

学んだことを生かすための指導内容・方法の工夫（主な取組）



変容

- ・自分の得意に気付くことができるように、役割を設定し、出来ていることへの評価を重ねたことで、挨拶や報告に自信をもてるようになった。保健体育科で、堂々と基本の技を出せるようになるなど、繰り返したことに自信をもって取り組んでいる。
- ・自信の高まりから、実習期間に、他の作業班の職員に話し掛け、自分の頑張りを伝えたり、実習の振り返りで、担当した作業について細かく説明したりするなど、自分から堂々と話をする場面が増えてきている。
- ・作業学習で、作業を進んで選択し、自信をもって取り組むようになった。その他の学習場面でも、不安がらずに学習に取り組む様子が多く見られるようになった。

今後の取組

- ・経験の浅い活動や、分からないことに対してはまだ自分から取り組むことが難しいので、様々な場面での経験と繰り返しの学習設定、できている部分分かるような教具や言葉掛けの工夫により自信を高める。
- ・自分の頑張る部分を意識できるよう、自分で目標を立て評価することを繰り返す。
- ・分からないこと、難しいことについて、どうすればよいか考えて行動するようになってほしい。

# 保健体育科で学んだことを活用して学習に取り組む姿（対象生徒：中学部 3年 D）

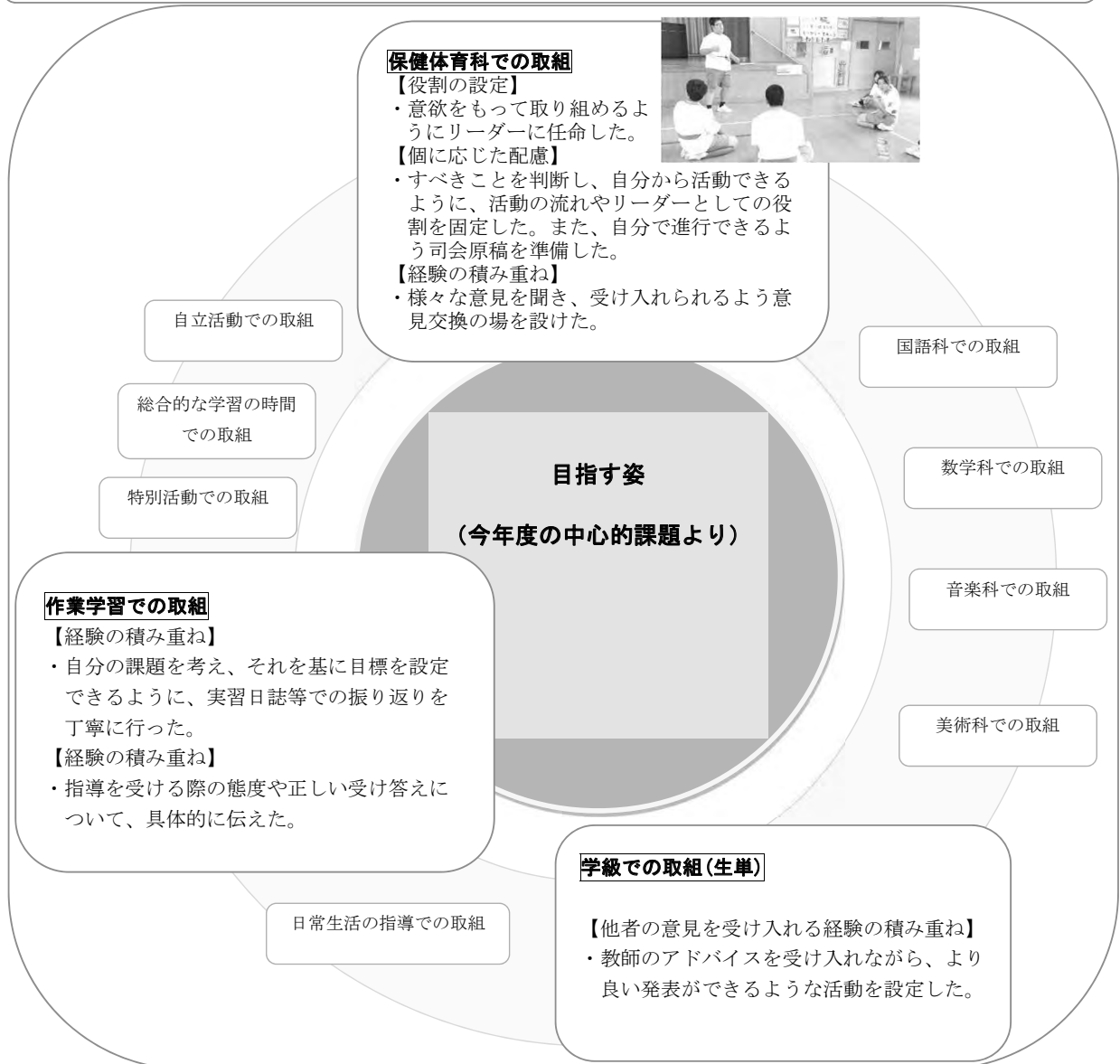
実態

- ・自分の意見に自信があり、他の意見をなかなか受け入れられないことがある。また、友達から自分と違う意見が出ると動揺したり、気持ちを落としたりする様子が見られる。
- ・リーダーとしての役割に意欲をもって取り組む反面、思うように進めることができないと焦りからか情緒不安定になることがある。

目指す姿

他者の意見を受け入れながら、安定した気持ちで自分の役割を果たす。

学んだことを生かすための指導内容・方法の工夫（主な取組）



変容

- ・保健体育科では、リーダーとしての役割に意欲をもって取り組むだけでなく、台本があることでやる事が分かりスムーズに進行することができた。また、経験を重ねることで、他場面でリーダーになった際も自分で判断して行動する場面が多く見られるようになった。
- ・様々な場面でリーダーとして頼られる経験や、できた自信、受けた指導が正しいと実感する経験を積んだことから、指導を受けた際に不安定になることが減り、指導を受け入れて行動しようとする事ができるようになった。

今後の取組

- ・態度や正しい受け答えについて、具体的な文言や話し方について、継続して伝えていく必要がある。
- ・新たな課題に対して、過去の経験からヒントを得ながら解決していく活動を積み重ねていく必要がある。



## Ⅱ 各学部・寄宿舍の研究 高等部

# 高等部の実践 ～職業科の取組を通して～

## 1 研究対象教科の設定理由

高等部では昨年度、職業科の授業づくりにおいて、指導計画や1単位の学習過程の改善等を行った結果、生徒一人一人が自分自身の課題に向き合い、課題改善のために具体的に実践しようとする姿を育むことへとつながった。一方で、自己肯定感の低い生徒や自己理解が難しい生徒はまだ多く、自らの良さや成長、実習における成果に気付いたり、認めたりする生徒が少ない実態がある。



そこで今年度も引き続き職業科を研究対象とし、実習における成果や成長を大きく取り上げ、生徒一人一人の自己理解をさらに深めていきたいと考えた。職業科を通して目指す姿は以下の二点である。

## 令和2年度 職業科を通して目指す姿

- 1 周囲に認められる経験を積み重ね、自分の課題と向き合い前向きに改善しようとする姿
- 2 課題改善のみならず、自らの「良さや成長」を実感し、それを学校生活の中で生かそうとする姿

上記の姿を目指し、職業科における授業づくりを行うこととした。

## 2 授業改善の工夫と生徒の様子

### 題材名「自分をさらに高めるために ～後期職場実習から～」

#### 題材の要旨・特徴

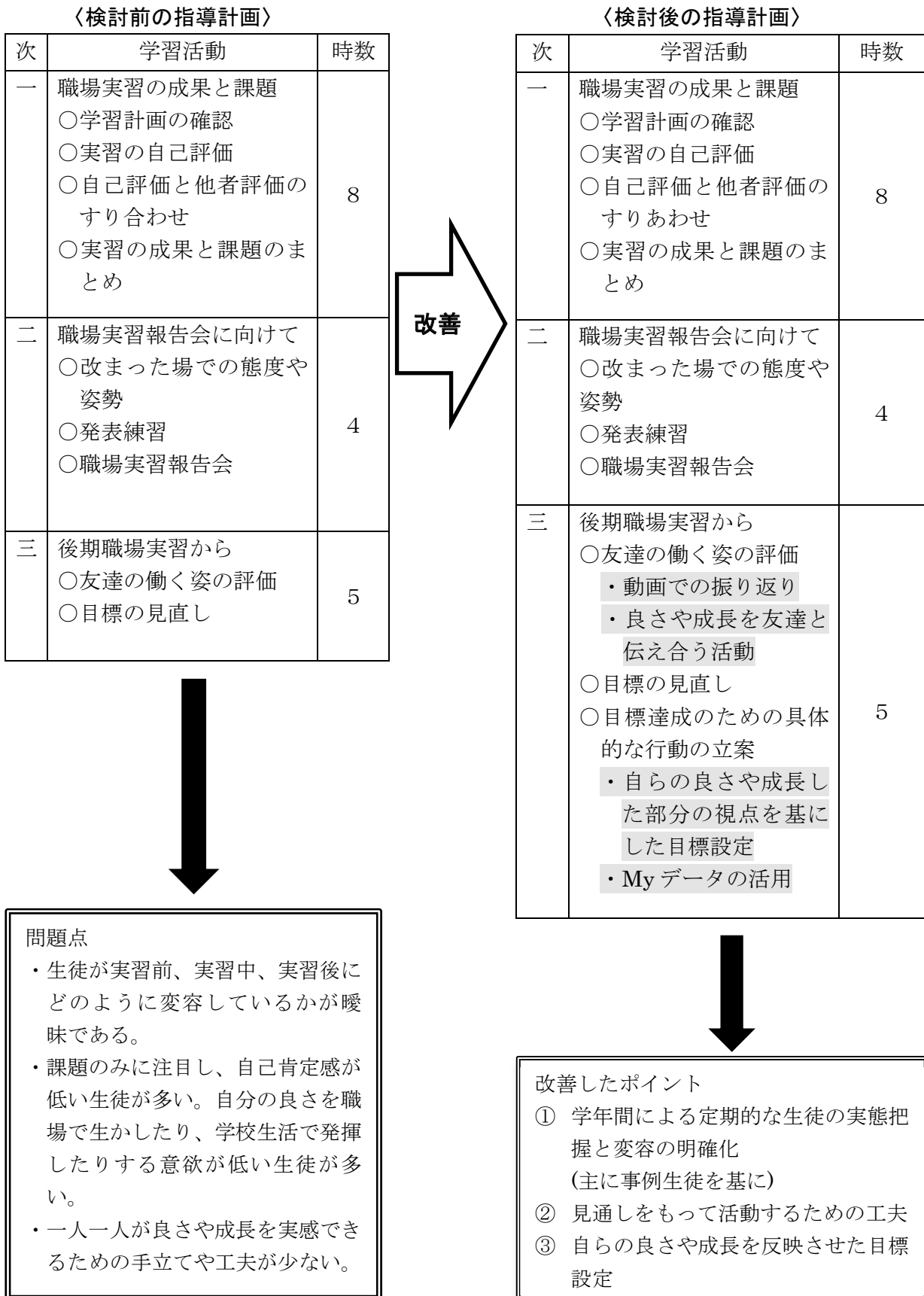
高等部2年職業①グループ（主に一般就労を希望している生徒で構成される）を研究対象とし、後期職場実習を中心とした学習過程や学習内容についての改善を行った。

本題材では、実習で明らかになった成果と課題を整理し、主に成果について友達と共有する活動を行った。自己評価による「成果」が周りの人から見ても同じであることや、自分では意識していなかった自身の良さに周囲の友達からの評価を通して気付く姿を大切にしてきた。また、友達の働く姿を観察することを通して、自分に必要な力について気付く力や「なりたい自分」を意識する力を育みたいと考えた。そして、自らの良さを認めた上で、課題と向き合い、改善に向けて努力する姿へとつなげていきたいと考えた。生徒が自分自身の成長を実感し、それを学校生活でも生かそうとする気持ちをもつことで、様々な場面で良さを発揮しながら働く姿につながるのではないかと考え、本題材を設定した。



## (1) 指導計画の改善（主体的・対話的・深い学びの視点で）

※表中の網掛け部分は変更・追加されたものを示す。

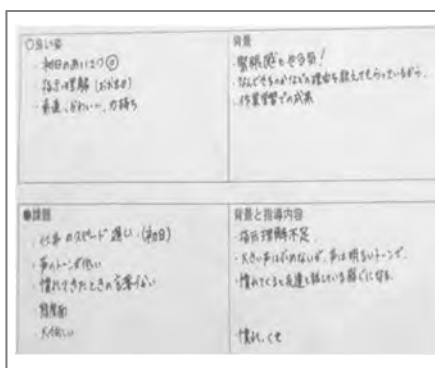


〈改善ポイント① 学年間による定期的な生徒の実態把握と変容の明確化〉

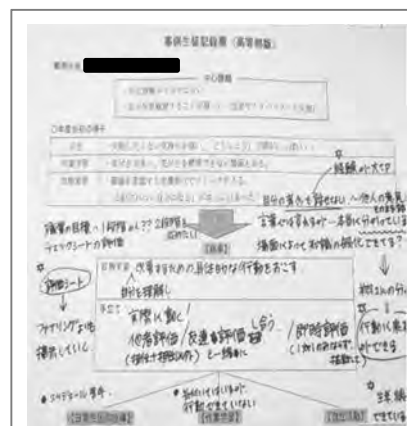
実習の事前事後学習の期間を通して、生徒の中心課題や必要な手立て、変容が見られている部分などを教師間で共有する機会を充実させた。実習前、実習中、実習後と各場面における生徒の様子を共有し合い、生徒の中心課題に全体で迫る指導を目指した。生徒の実態については「実態分析シート」を活用し、生徒の中心課題や目指す姿、具体的な手立て等を検討する際に教師が使用した。また、日々の変容や手立ての評価に関しては「評価シート」を活用した。実習を一つの区切りとし、日々の学習活動の中でどのような変容が見られ、今後の学校生活でどのようなことをねらっていきたいかを学部職員間で確認をした。



教師間での話し合いの様子



評価シート（一部抜粋）



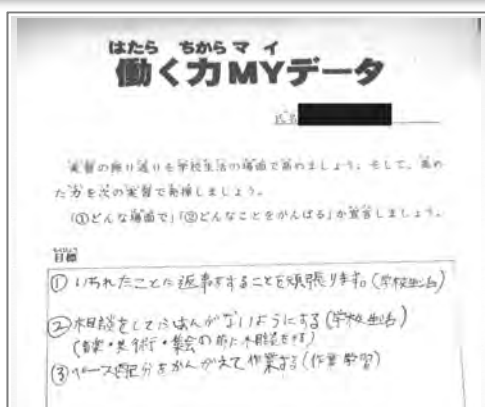
実態分析シート（一部抜粋）

〈改善ポイント② 見通しをもって活動するための工夫〉

実習事後学習の中で、動画視聴をする場面を取り入れた際には、授業の流れや話し合いの方法等をパターン化し、生徒が見通しをもてるような工夫を行った。動画視聴や話し合い活動は当初、教師主導で行われていたが、授業の流れや話し合いの進め方が浸透し、少しずつではあるが生徒主体で学習活動を進める姿が見られるようになった。また、毎時間の動画視聴を通して、実習先によって求められる力の違いに気付く姿も見られた。

〈改善ポイント③ 自らの良さや成長を反映させた目標設定〉

動画視聴を取り入れた実習の振り返りは、生徒自身が自分の良さや成長は何かを具体的に考えるきっかけとなった。そして、実習を通して見つけた自分の良さを、今後の学校生活でどう生かしていくか、具体的場面を絞って目標設定する姿へとつながった。また、良さや成長を自分で見つけたり、他者から伝えられたりする活動を通して、自分自身に自信が付き、自らの課題に対しても前向きに改善していこうとする姿が見られた。目標設定の際は、進路指導の一環である「Myデータ」のシートを使い、学校生活で何を実践するか目標を立て、担任や作業学習担当と共有した。



今後の目標を記したシート

## (2) 学習過程の改善（主体的・対話的・深い学びの視点での授業づくり）

※枠で囲ってある箇所が改善ポイントである。

〈検討前の学習過程〉

時間 (分)	学習活動
5	1 本時のめあてと学習活動を確認する。
35	2 グループに分かれて評価する。 (1) 動画を視聴する。 (2) 自分の考えをまとめる。
10	3 まとめと次時の学習の予定を知る。

改善

〈検討後の学習過程〉

時間 (分)	学習活動
5	1 本時のめあてと学習活動を確認する。
35	2 グループに分かれて評価する。 (1) 1名が自分の職場実習の概要を伝える。 <b>改善ポイント①</b> (2) 動画視聴を基に、「働く力」の観点で友達の姿を評価する。 <b>改善ポイント②</b> (3) グループ同士で共有する。 <b>改善ポイント③</b> (4) 自分の考えをまとめる。
10	3 まとめと次時の学習の予定を知る。

### 問題点

- ・動画視聴の操作を教師が行っていたことにより、効果的な発問をしたり生徒の気付きを取り上げたりすることが難しい。
- ・教師主導で話合いが進められ、生徒の気付きや意見が生まれにくい。また、自分や友達の意見も教師が記録していたため、まとめの際に話合ったことを想起したり、自分の言葉でまとめたりすることが難しい。
- ・提示された教材の情報量が多く、話合いに深まりが見られない。また、本時で動画に取り上げられなかった生徒が何を学び得たかが曖昧。

### 改善したポイント

- ① 実習先のイメージ（職種や求められる力）の共有と繰り返し動画視聴する時間の確保
- ② 生徒主体で進める話合い活動の設定とグルーピングの工夫
- ③ まとめに活用できる教材・教具の工夫

### 〈改善ポイント① 実習先のイメージの共有と繰り返し動画視聴する時間の確保〉

実習の様子を記録した動画の視聴は、「〇〇さんの〇〇の動きが良い」「自分の〇〇ができていることに気付いた」など、自分や友達の良い点や成長に気付くためのツールとして有効であった。教師が動画を操作するのではなく、生徒自身でiPadを操作し、視聴をしたことで、繰り返し動画を見返し、場面によってはスローモーションにしながら実習先での動きを確認していた。実習先がそれぞれ異なるため、友達の実習先のイメージや職種によって求められる力を具体的に想像することが難しい部分があった。その点を動画で補い、実習に行った本人に対して「この仕事はどんなことに気を付けているの？」と質問をしたり、自ら実習内容について説明したりするなど、友達の経験を通して職種を理解する一助となった。



iPadで動画を見合う様子

### 〈改善ポイント② 生徒主体で進める話し合い活動の設定とグルーピングの工夫〉

生徒の気付きや意見が生まれにくい状況を改善するために、話し合いの進め方を提示し、グルーピングの工夫を行った。特にグルーピングにおいては、じっくりと動画を見たり友達と意見交換したりすることをねらうために、4～5人だったグループをさらに分割し、各グループとも3人グループで構成した。グループの人数を少人数化したことで、友達同士での意見交換が増え、できるだけ教師が介入しない形で話し合いを進められるようになった。

また、動画視聴をする中で、友達の学校での様子と実習先との様子の違いに気付いたり、友達の頑張りや真剣に取り組む姿を素直に認め、伝え合ったりする姿も見られた。



話し合い活動の様子

### 〈改善ポイント③ まとめに活用できる教材・教具の工夫〉

話し合いの際に、気付いたことを具体的に記すための参考となるように、「働く力チェックリスト」（他校の取組や文献を参考に、本校で作成したもの）を提示し、活用した。

また、自分で話し合いの内容を想起したり、整理したりしながら、自ら学習のまとめをすることができるように、付箋紙を用いて話し合いの記録を残していった。生徒はチェックリストのキーワードを見ながら、自分や友達の良さや成長を具体的に書き記したり、付箋紙を見ながら話し合いを想起し、本時で何を学んだかをまとめたりする姿が見られた。



話し合いの記録の一部

### 「職業科を通して目指す姿」を育むために

- 自らを客観的に評価するための教材・教具の効果的な提示。
- 実習と学校生活を関連付け、具体的な行動目標を立案する場面の設定。
- 定期的な生徒の変容の共有と手立ての検討



## 3 実践の成果

- ・生徒が自分自身を客観的に捉えることができるよう、動画を視聴する場面を取り入れたり、友達や教師と意見交換をしたりする機会を充実させたことは、生徒にとって効果的であった。特に動画視聴に関しては、実習先での様子を客観的に見ることへとつながった。また、巡回記録のエピソードや実習評価票など、文面からイメージしづらい実際の動きを動画で提示したことで、生徒自身がより納得感をもって実習の振り返りをするようになった。
- ・良さや成長を実感し教師や友達など多くの人とそれを共有したことで、生徒の自信へとつながり、自己肯定感の高まりを促すきっかけとなった。また、課題に対しても前向きに改善していこうとする意識が醸成された。友達や教師など、身近な人から具体的に褒められたり、認められたりする経験を授業の中で繰り返し積み重ねたことで、今まで気付かなかった自分の良さや友達の成長に気付き、それらを伝え合う姿が見られるようになった。
- ・実習前、実習中、実習後と定期的に生徒の様子を職員間で共有し、手立てを検討したことで、生徒の中心課題に迫る指導ができた。年度当初に話合った生徒の中心課題に対して、現在の手立てはどうあるべきか、各教科でどのように迫るかなど、職業のみならず各教科と関連付けて指導方法を検討する機会となった。

## 4 今後の取組

- 「働く力チェックリスト」の内容の精選
  - ・教師や生徒がより使いやすい形となるように、項目を精選したり、チェックリストの様式を検討したりする必要がある。「働く力」の根拠をより明確にし、職種や職場に応じて柔軟に活用できるよう改善していきたい。
- 職業科としての教科部会の定期的な実施
  - ・各学年での取組の共有をしたり、時期によって取り組むべき内容を検討したりする機会を拡充し、定期的にそれを評価する機会を設けていきたい。
- 福祉サービスの利用を希望する生徒に有効な職業の授業づくり
  - ・福祉サービスの利用を希望する生徒が職業科の授業において、より深い学びとなるような授業や題材の工夫をしていきたい。

## 高等部 2年 職業科①グループ 学習指導案

日 時 令和2年12月17日(木) 10:30～11:20  
場 所 音楽室  
授業者 佐藤加奈子 (T1) 落合久貴子 (T2)  
工藤彩野 (T3)

1 題材名 自分をさらに高めるために～後期職場実習から～

### 2 題材の目標

知・技	働くために必要な力の要素やその具体的内容について理解する。
思・判・表	実習で得られた成果と課題を基に学校生活の目標を立て、目標達成のための具体的な行動や実践場面を考える。
主	実習の成果から自分自身の成長を実感し、それを学校生活の場面でも進んで発揮しようとする気持ちをもつ。

### 3 生徒と題材について

男子9名、女子4名、計13名の学習グループである。11名が一般就労を希望しており、2名は後期職場実習から福祉サービスの利用を踏まえた実習を行っている。学校生活に向かう気持ちを整えることの困難さや不規則な生活リズム、精神面での不調等から登校日数が少ない生徒もおり、実態は多様である。

昨年度、全ての生徒が職場実習を経験した。その事前事後学習では、自己評価と他者評価を繰り返して、自分の良さや課題について「なぜ、それができたのか」「なぜ、それが難しいのか」といった本質まで思考を深めることを大切にできた。その取り組みを通して、生徒は課題改善の意識を強くもてるようになった。一方で、自分の良さを認めることが難しい生徒もおり、実習の成果が学校生活のごく一部の場面での発揮にとどまる様子も見られた。

今年度の職業科では、様々な場面で自分の良さを生かそうという気持ちをもつことができよう、自己理解についての学習を行ってきた。自己肯定感の低い生徒が自分の課題と向き合い、改善する意欲をもつためには、「周囲に認められる経験」を積み重ねたり、「自分と同様に友達も課題と向き合っている」という気付きを得たりすることが必要であると考えた。そのため、実習事後学習においては、実習の「成果」を大きく取り上げ、自分の成長を実感することを大切にしている。

本題材では、実習で明らかになった自分の成果と課題を整理し、主に成果について友達と共有する活動を行う。自分で導き出した「成果」が周りの人から見ても同じであることや、自分では意識していなかった良さに周囲の友達を通して気付く姿を大切にしたい。また、友達の働く姿を観察することを通して、自分に必要な力について気付く力や「なりたい自分」を意識する力を育てたい。そして、自分の良さを認めた上で自分の課題と向き合い、改善に向けて努力する姿を導くことができるようにしたいと考える。

生徒が自分自身の成長を実感し、それを学校生活でも生かそうとする気持ちをもつことで、様々な場面で自分の良さを発揮しながら働く姿につながるのではないかと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、以下の点に留意する。

- ・実習の成果と課題を整理できるように、実習日誌を基に情報を整理する活動を設ける。また、自己評価と他者評価が一致する点やずれが生じる点に気付くことができるように、レダーチャートを使って分析する活動を設定する。
- ・生徒同士で話し合い活動を進め、自分の考えを積極的に伝えることができるように、グループ別の活動場面を設定する。また、話し合いの流れを示す教材を提示する。
- ・友達の働く様子を評価する場面では、自分や友達の良さを具体的に捉えることができるように、「働くために必要な力」の観点を示す。

### 4 指導計画 (総時数 17 時間)

次	小題材名	活動内容	時数
一	職場実習の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画の確認</li> <li>・実習の自己評価</li> <li>・自己評価と他者評価のすり合わせ</li> <li>・実習の成果と課題のまとめ</li> </ul>	8 時間
二	職場実習報告会に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改まった場での態度や姿勢</li> <li>・発表練習</li> <li>・職場実習報告会</li> </ul>	4 時間
三	後期職場実習から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の働く姿の評価</li> <li>・目標の見直し</li> <li>・目標達成のための具体的な行動の立案</li> </ul>	5 時間 (本時3 時間)

### 5 本時の計画 (総時数 17 時間中の 14 時)

#### (1) 全体の目標

知・技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の働く姿と「働くために必要な力」の要素を関連させながら良さを捉える。</li> <li>・働く友達の姿から、良さを見付け、友達に説明したり、「働くために必要な力」の観点に沿って伝えたりする。</li> <li>・働く友達の良い面を自分に置き換えて考え、自分に必要な部分や大事にしたい部分について理由を添えてまとめる。</li> </ul>
主	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の言葉から、自分自身の良さや成長を感じ取り、学校生活で大切にしていきたい内容を選ぶ。</li> </ul>

#### (2) 個別の目標

氏名	本単元に関する生徒の実態と様子	単元の目標		本時の目標 (本時、特に達成したい観点を振り表記)
		知	思・判・表	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く上での自分の課題(自信がない部分)を自覚しており、意識して行動することができる。</li> <li>・自分の良さについては恥ずかしさから自ら話すことはあまりしないが、教</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くために必要な力」要素について大まかに知る。</li> <li>・友達による評価から得られた成果について、感想を自分の言葉で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く友達の良さを「働くために必要な力」の観点に沿って伝える。</li> </ul>	



		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題に対して意識が向きがちな場面を記録や動画などの具体的な場面を示しながら教師と確認すること、考える視点に気をつけたり、自分の考えをまとめたりできる。</li> <li>• 失敗やプレッシャーへの耐性の低さから、不適切な物言いをすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習の成果や課題と、働く力とを比べ、必要な力や行動に気付く。</li> <li>• これからの学校生活の目標を立て、実践や評価をしながら自分の行動を振り返る。</li> <li>• 立てた目標を学校生活で実践する経験を積み重ね、実践的な場面で態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く様子を見て、働く力の要素に関連させながら良さを伝える。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題に対して意識が向きがちな場面を記録や動画などの具体的な場面を示しながら教師と確認すること、考える視点に気をつけたり、自分の考えをまとめたりできる。</li> <li>• 失敗やプレッシャーへの耐性の低さから、不適切な物言いをすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己評価と他者評価から、働く上で求められる力に気付く、具体的に</li> <li>• 学校生活での目標を具体的にし、実践から自分の行動を評価できる。</li> <li>• できた状況や経験を積み重ね、実践的な場面での態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の良さに気付く、具体的な場面と理由を挙げながら伝える。</li> </ul>	
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 成果や称賛を素直に受け入れず、課題に対して意識が向きがちである。</li> <li>• じっくり考えて自分の考えをまとめたり、周りの意見を聞き取りようとしたりする。</li> <li>• 自分の目標は分かっているが、そのときの自分自身の気持ちが優先し、行動が伴わないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己評価と他者評価を比べ、働く上で求められる力と具体的な行動や理由を明らかにする。</li> <li>• これからの目標を立て、実践と評価をしながら行動を振り返る。</li> <li>• 成長と改善の必然性を意識しながら、実践を積み重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿の良い部分を認め、学校生活のどの場で生かすことができる。</li> </ul>	
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 働くための必要な力について、具体的なイメージする。</li> <li>• 実習から得られた成果を学校生活のどの場面で発揮できるか考え、目標を立てる。</li> <li>• 実習での成果を学校生活でも生かすために、具体的な行動目標を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿から、「働くために必要な力」の要素に沿って良さを考え、理由を添えて伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿の良い部分と働くために必要な力の要素を関連付けて考え、評価した理由を添えて伝える。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分自身の成長について、昨年度の自分と比べて、比較することによって実感する。</li> <li>• 友達の働く姿から、良さを観点に沿って評価し、具体的な理由を添えて伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿から、良さを観点に沿って評価し、具体的な理由を添えて伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿から、良さを観点に沿って評価し、具体的な理由を添えて伝える。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分自身の成長について、昨年度の自分と比べて、比較することによって実感する。</li> <li>• 友達の働く姿から、良さを観点に沿って評価し、具体的な理由を添えて伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿から、良さを観点に沿って評価し、具体的な理由を添えて伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿から、良さを観点に沿って評価し、具体的な理由を添えて伝える。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「働くために必要な力」の要素を大まかに理解しており、レダーチャートにすることで進んで比較したり分析したりすることができるとできる。</li> <li>• 自分の課題や改善の必要性があることを理解しているが、成果に対する意識はまだ薄い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分や友達の実習の成果が働くために必要な力の要素のどれに当たるかが分かる。</li> <li>• 実習から得られた成果や課題を学校生活のどのようなか場面で生かすか具体的に考える。</li> <li>• 実習から得られた成果を学校生活で進んで生かそうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿の良い部分と働くために必要な力の要素を関連付けて考え、評価した理由を添えて伝える。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 働くための必要な力について、具体的なイメージする。</li> <li>• 実習から得られた成果を学校生活のどの場面で発揮できるか考え、目標を立てる。</li> <li>• 実習での成果を学校生活でも生かすために、具体的な行動目標を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿から、「働くために必要な力」の要素に沿って良さを考え、理由を添えて伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の働く姿の良い部分と働くために必要な力の要素を関連付けて考え、評価した理由を添えて伝える。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を休みがちで、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。</li> <li>・人前で話すことに恥ずかしさや不安感があり、教師と別室で個別学習をしている。</li> <li>・本生徒の興味関心を基に学習活動を展開しており、その中でこれからの目標や振り返りを教師とやり取りしながら行っている。</li> <li>・自分の思いや考えを表すことが苦手で、自分から発言することはほとんどないが、メモに自分の考えを書いたり、教師が示す手掛かりから選んだりすることが出来る。</li> <li>・目標に対する実践は、まだ慣れた人や限定された場面でのみ見られるが、成果や自信をもってできることを自分の言葉で伝えられるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の成長と向き合っている課題を明らかにする。</li> <li>・これからの学習活動と学校生活での目標を確かめ、教師と一緒に振り返りする。</li> <li>・自分の体調などと同じ合いながら学校生活を過ごす。</li> <li>・実習の成果や課題と、働く力とを比べ、必要な力を具体的な場面から見つける。</li> <li>・これからの学校生活の目標を立て、具体的な状況と行動とを関連付けて実践、評価する。</li> <li>・立てた目標を学校生活の実践的な場面で積み重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことや人のために役に立てることについて、具体的活動を通して知る。</li> </ul>	知・技 思 判 表 主	知・技 思 判 表 主
H			<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見え方から、働く自分の良い部分を受け止め、特に大切にしたい部分について理由を添えて選ぶ。</li> </ul>	知・技 思 判 表 主	知・技 思 判 表 主
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くために必要な力」の各要素を言葉のみで理解することは難しいが、実習や作業学習などでの自分の経験を、関連付けて考えることで、言葉の意味が分かるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で評価されている内容が、「働くために必要な力」の要素のどれにあたるかを知る。</li> <li>・実習での成果から見えた自分の長所を生かした目標を考えて設定する。</li> <li>・実習での成果を生かした目標を意識し、学校生活で実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見え方から、働く自分の良い部分を受け止め、特に大切にしたい部分について理由を添えて伝える。</li> </ul>	知・技 思 判 表	知・技 思 判 表 主
J			<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見え方から、働く自分の良い部分を受け止め、特に大切にしたい部分について理由を添えて伝える。</li> </ul>	知・技 思 判 表	知・技 思 判 表 主

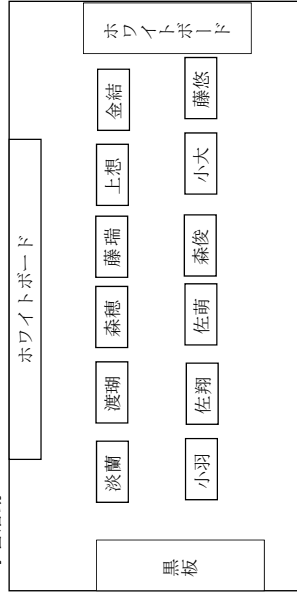
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後に就きたい仕事に明確であり、体調に合わせながら、就職するために学校生活でできることを考えて目標設定し、努力ができる。</li> <li>・集団での学習経験を重ねてきたことで自分の良さを見付けることができているが、目標を考えている場面では自分の苦手な部分に着目することが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の成果や課題と、働く力とを比べ、必要な力を具体的な場面から見つける。</li> <li>・自分の体調などと同じ合いながら学校生活を過ごす。</li> <li>・自分や友達の実習での成果が「働くために必要な力」の要素のどれに当たるかが分かる。</li> <li>・実習での成果を学校でも実践する必要性を考えたり、学校生活のどの部分で発揮するかを決めたりする。</li> <li>・実習での成果を学校生活でも実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見え方から、働く自分の良い部分を受け止め、特に大切にしたい部分について理由を添えて伝える。</li> </ul>	知・技 思 判 表	知・技 思 判 表 主
K			<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見え方から、働く自分の良い部分を受け止め、特に大切にしたい部分について理由を添えて伝える。</li> </ul>	知・技 思 判 表	知・技 思 判 表 主
L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を作業学習や実習での目標にしたことで、課題が自分の良さに変わってきている。一定の時間は目標を意識して作業できるよるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を作業学習や実習での目標にしたことで、課題が自分の良さに変わってきている。一定の時間は目標を意識して作業できるよるよるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見え方から、働く自分の良い部分を受け止め、特に大切にしたい部分について理由を添えて伝える。</li> </ul>	知・技 思 判 表	知・技 思 判 表 主
M			<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見え方から、働く自分の良い部分を受け止め、特に大切にしたい部分について理由を添えて伝える。</li> </ul>	知・技 思 判 表	知・技 思 判 表 主

(3) 学習過程

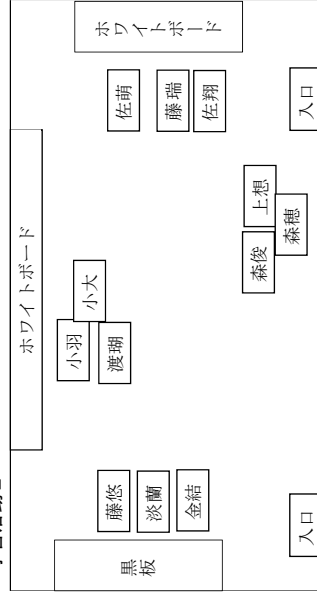
時間 (分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:30 (5)	1 本時のめあてと学習活動を 確認する。 【めあて】 友達の働く姿を評価する。 ★友達にはどのような「働く力」があるか。 ★友達の良い部分で自分に 取り入れられる部分は何か。	<p>学習に向かう気持ちを整え、姿勢と視線を意識できるよ うに起立して挨拶をする。気持ちが十分に整っていない と思われるときは、やり直しを指示する。(T1)</p> <p>本時の学習で何を学ぶかが分かるように、めあてを具体 化した内容を提示する。また、めあての要点が分かるよ うに、重要な部分にアンダーラインを引く。</p>
10:35 (35)	2 グループに分かれて評価 する。 (1) 1名が自分の職場実習 の概要を伝える。 (2) 動画視聴を基に、「働 く力」の観点で友達の 姿を評価する。 (3) グループ同士で共有す る。 (4) 自分の考えをまとめ る。	<p>評価と話し合い活動の手順が分かるように、学習シートを 準備する。</p> <p>友達の評価について、考えをまとめてから伝えることが できるように、付箋紙に記入する時間をとる。</p> <p>「働くために必要な力」のどの項目の評価が高かったか 視覚的に理解することができるよう、「働くために必 要な力」の観点のみを記した表を提示し、付箋紙を並べ て貼る活動を設定する。</p> <p>動画には表れない良さにも気付くことができるように、 実習中の巡回記録を簡潔にまとめたものを補足資料とし て提示する。</p> <p>様々な視点で友達の様子を見ることができるよう、動 画視聴を教回繰り返したり、質問をしたりできる時間的 な余裕をもつ。</p> <p>友達からの評価を書き込んだり、自分に取り入れられる 力についてまとめたりできるよう、学習プリントを準備 する。</p> <p>様々な考えに触れることができるように、同じ人を評価 するグループで意見を共有する時間をとる。</p> <p>【活動グループ】 &lt;A&gt; 渡・瑚、小・大、小・羽 &lt;B&gt; 森・穂、上・想、森・俊 &lt;C&gt; 藤・瑞、佐・翔、佐・翔 (T2) &lt;D&gt; 淡・蘭、藤・悠、金・結 (T3)</p> <p>※A・Cは藤・瑞を評価、B・Dは森・穂を評価する。</p>
11:10 (10)	3 まとめと次時の学習の予 定を知る。	<p>友達による評価や今後の目標（自分に取り入れたい力） を共有できるように、各グループから1名ずつ発表する 時間をとる。</p>

(4) 配置図

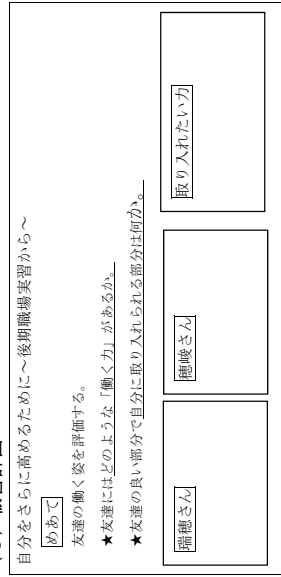
学習活動1・3



学習活動2



(5) 板書計画



(6) 評価の観点

(生徒)  
・友達の働く様子と「働くために必要な力」を照らし合わせ、友達の良さを見つけたら、自分に必要な力について考えたりすることができたか。

(教師)  
・生徒が「働くために必要な力」の観点に沿って友達の良さを見つけたら、友達の姿を自  
分に置き換えて考えたりするための教材教具や発問の仕方、グループ活動の流れは適切  
であったか。

# 職業科で学んだことを活用して学習に取り組む姿（対象生徒：高等部 2年 E）

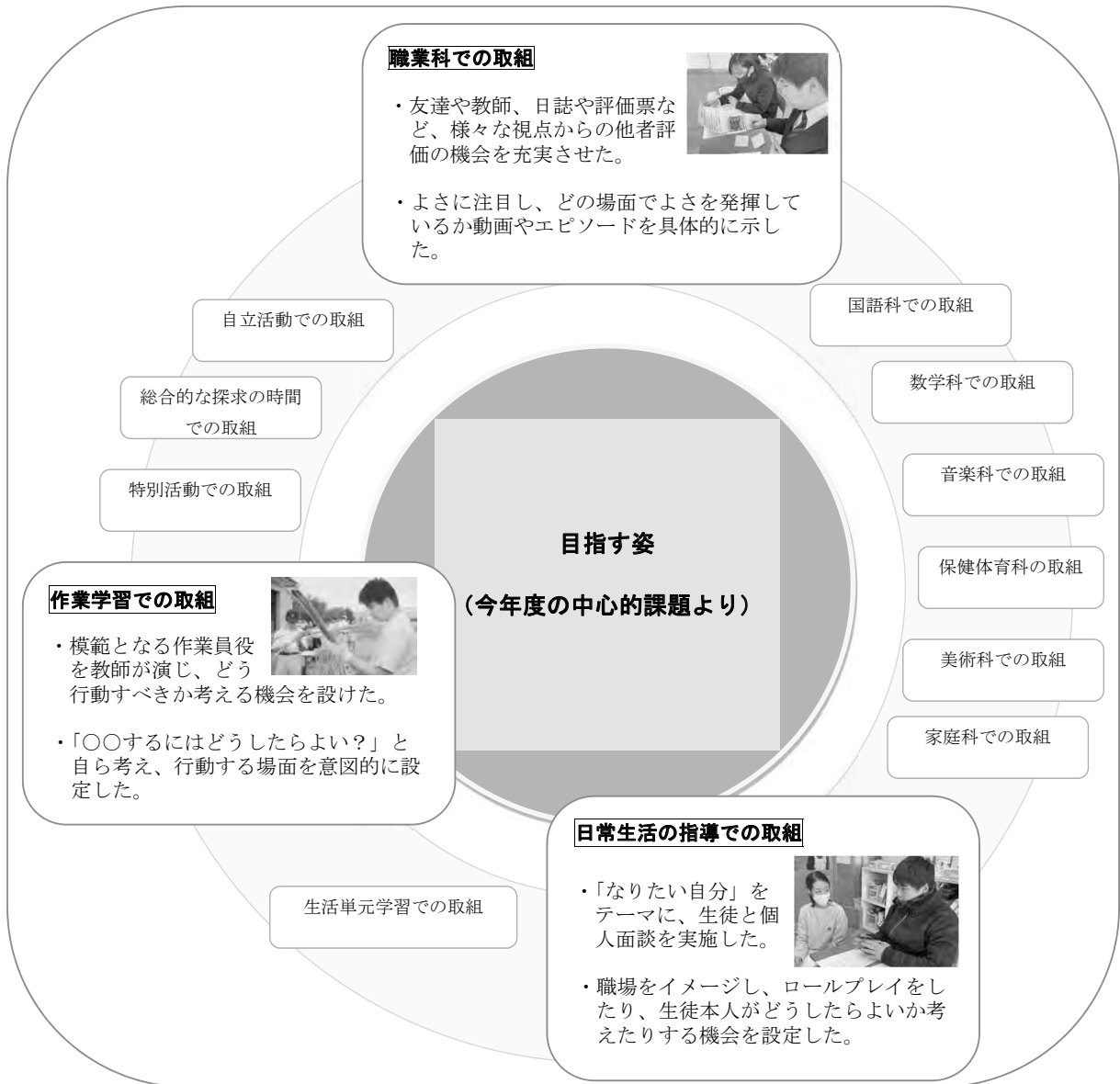
実態

- ・自信があることに対して意欲的に取り組み、進んで活動することができる。
- ・様々なことに気付く力はあるが、自信がもてず自ら行動する場面が少ない。
- ・自己肯定感が低く、アドバイスや注意に対して反発してしまう。

目指す姿

自己理解を深め、自信をもって自ら行動する。

学んだことを生かすための指導内容・方法の工夫（主な取組）



変容

- ・職業科や日常生活の指導、作業学習の場面において繰り返し、「どうしたらよいか?」「なぜそう思ったのか?」を問い掛けたり、教師がモデルとなり見本を提示したりしたことで、アドバイスに対して素直に応じ、改善のために行動しようとする姿が見られるようになった。
- ・生徒自身のよさや成長した部分を教師が具体的なエピソードを交えて称賞したり、友達から伝えられたりする経験を積み重ねたことで、少しずつ自信がもてるようになってきた。総合的な探求の時間など苦手の活動に対して、前向きに取り組もうとする姿が見られた。
- ・自己理解の深まりにより、作業学習において友達や後輩に効率のよい作業の仕方をアドバイスしたり、積極的に準備や片付けをしたりするなど、リーダーシップをとる姿が見られるようになった。

今後の取組

- ・自己理解をさらに深め、失敗や間違いを素直に受け入れ、改善しようとする気持ちや態度の育成。

## Ⅱ 各学部・寄宿舍の研究

### 寄宿舍

## 寄宿舎研究

### 1 研究テーマ

「歯磨きの技術習得を目指した生活指導の在り方」  
～寄宿舎指導員の専門性向上を目指して～

### 2 研究テーマの設定理由

#### (1) 昨年度の研究から

寄宿舎に入舎してくる生徒の多くは、家庭生活において、基本的な生活習慣をある程度習得しているものの、技術的には細かい部分の支援を必要とする生徒が多い。

歯磨きについては、実態として、多くの生徒に磨き残しがある。歯ブラシの使い方、歯の磨き方の技術不足が原因と考えられる。

昨年度、「歯磨きの技術習得を目指した生活指導の在り方～寄宿舎指導員の専門性向上の取組を通して～」をテーマに研究に取り組んできた。

歯磨きに関する職員研修の実施により、指導するために必要な知識や技術を高め、さらに、実態把握に基づいた指導や、教材教具、指導体制の見直し等を行い、効果的な指導方法を追究することにつながった。また、ICT支援機器活用に向け、指導動画作成についての職員研修を行い、生徒の興味関心を引き出す指導動画を作成し、日常的に指導で活用している。

生徒に関しては、学習会を通して、口腔内を健康に保つための方法や、毎食後の歯磨きの必要性についての意識付けを図ったことが、理解につながった。日々の指導では、動画の教材が効果的で以前に比べて、時間をかけて歯を磨くことができるようになり、磨き残しが少なくなってきた。

#### (2) 昨年度の課題から

昨年度は、カラーテスター、動画やセルフモニターなど、様々な方法を用いた指導を取り入れ、生徒の変容をみてきた。今後は、個々の生徒に合った指導方法を取り入れ、より効果的な指導方法を探っていくことが課題として挙げられている。また、家庭でも自分から取り組むための具体的な方策が必要ではないかという課題も挙げられている。

### 3 研究仮説

実態把握に基づいて、効果的な指導方法と指導体制を検討し、学習会やグループ別指導を実践する。必要性を理解し、自分に合った磨き方を知ることで、歯磨きの技術が高まり、毎食後の歯磨きが定着するのではないかと。

### 4 研究内容・方法

#### (1) 実態把握とグループ別指導

- ①アンケートの実施と実態把握
- ②グループ別指導内容の検討、実践

#### (2) 指導体制の見直し

#### (3) 学習会の実施

- ①必要性の理解
- ②全体指導と振り返り

#### (4) 保護者への情報発信

## 5 研究計画

月	主な会議・内容		その他の取組
4月	研究推進委員会	今年度の研究の計画や進め方について	
	研究全体会①	今年度の全校研究について	
	研究日①	今年度の研究方法について検討	
5月	研究日②	研究方法・内容について	
	研究日③	指導内容の検討 指導体制・教材教具活用方法の見直し	
6月	研究日④	指導経過の確認・修正	・実態把握 ・保護者アンケートの実施
7月	研究日⑤	職員研修	・歯磨きチェック表活用
8月	研究日⑥	指導経過の確認・修正	・学習会
9月	研究日⑦	指導経過の確認・修正	・グループ別指導①
10月	研究日⑧	指導経過の確認・修正	・グループ別指導②
11月	研究日⑨	今年度の振り返り	・グループ別指導③
12月	研究日⑩	今年度のまとめ	・学習会 ・歯磨きチェック表活用
1月	研究日⑪	今年度のまとめと次年度の取組	・研究紀要の原稿作成
2月	研究日⑫	次年度の取組について	
3月	研究全体会②	今年度の成果と今後の取組	

## 6 研究経過

### (1) 実態把握とグループ別指導

#### ① アンケートの実施と実態把握

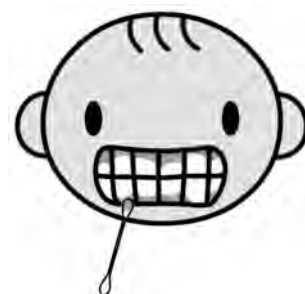
保護者から家庭での歯磨きの状況についてアンケートを行った。家庭での1日の歯磨きの回数は3回が35%、2回が39%と比較的多いことが分かった。しかし、昨年度の課題として挙げたより効果的な指導方法と家庭でも自ら取り組む具体的な方策を追求するため、実態把握の方法を再検討した。昨年度、指導方法として取り入れたカラーテスターや動画、手順表の活用など全ての方法を実際に行い、それが有効かどうかの実態把握を行った。その実態や変容から三つのグループに分かれ、指導を行った。一つのグループは7～8人程度で、有効と思われる指導方法を取り入れた指導を行うことが可能となった。



手順表



動画



カラーテスター

## ②グループ別指導内容の検討、実践

毎月、歯磨きの目標を決め、そのねらいに沿った指導を三つのグループに分かれて3回実践した。

### 【指導のねらい】

- 指導①～手順に沿ってまんべんなく磨く  
歯磨きの持ち方と磨く強さを覚える
- 指導②～小刻みに歯ブラシを動かす  
縦磨きの仕方を覚える
- 指導③～自分の課題とこれからの手立てを考え、実践する

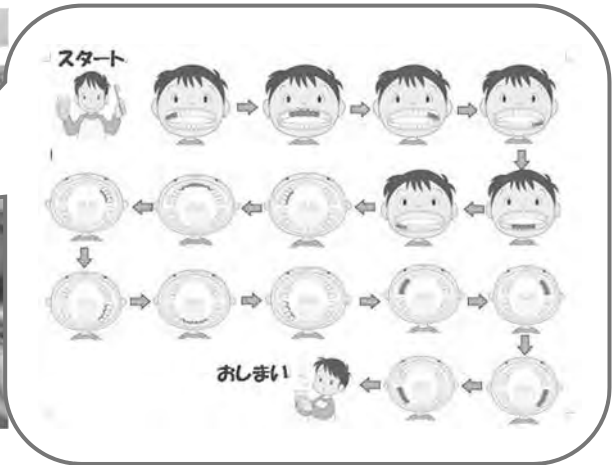
動画を活用したグループでは、生徒が自ら指導用の動画の作成に挑戦し、iPadで撮影したり、動画用のタイトルやコメントを自分たちで準備したりすることができた。その動画を普段の歯磨きの場で指導動画として、活用することができた。また、生徒自身がモデルになることで主体的な活動の場が多く見られるようになり、生徒自身の意欲向上にもつながった。

カラーテスターを活用したグループでは、鏡を見て自分の磨き残しの状態を歯列表に記入し、自分では気付かない汚れに気づき、丁寧に磨くことにつながった。

### 〈手順表の活用〉



手順表を使って指導している様子



### 〈動画の活用〉



動画を使って指導している



指導用の動画を撮影している様子





完成した動画



セルフモニターで自分の磨き方をチェック

【セルフモニター】  
手本の歯磨き動画と、自分が磨いている動画を比較し、自分の磨き方を修正する方法

〈カラーテスターの活用〉



模型で磨き方を練習



カラーテスター後、鏡で磨き残しを確認



自分でどこが磨けていなかったか記録

## (2) 指導体制の見直し

食後のにぎやかな状態で、人数が多い中での歯磨きは、集中して歯磨きに取り組むのが難しいという反省から、日常の指導体制についても見直しを行った。指導の重点を絞り、強化指導週間を決め、2～3人程度の少人数で指導できるよう体制を整えた。今までは、磨くことに集中できず、立ち歩きやおしゃべりが見られていたが、個々に応じた有効な支援方法が実践できる体制が整い、少人数で行うことで集中して取り組めるようになった。



## (3) 学習会の実施

### ①必要性の理解

グループ指導を始める前に歯磨きの必要性を理解するための学習会を行った。初めに「歯磨きQ&A」と称して、歯磨きについてのクイズを行い、その後虫歯の原因となるミュータンス菌の動画を見せ、これが虫歯や口臭につながることを伝えた。

ミュータンス菌の動画は、ほとんどの生徒が興味深く視聴することができた。



学習会の様子



### ②全体指導と振り返り

3回のグループ指導を終え、全体での学習会を実施した。各グループ代表の生徒が、活動の報告を行った。

磨き残しが多い箇所を確認し、さらにマイクロスコープカメラを使用し、歯の模型を口腔内に見立てて、生徒による磨き方の実演を行った。



これまでグループで学習してきたことを発表



マイクロスコープで歯の磨き方を実演

個々で取り組んでいる課題については、振り返りチェックシートを活用し、個々の振り返りを行った。チェックシートの結果から、自分に合った歯磨きの方法が分かった生徒は24人中18人、自分から歯磨きをするようになった生徒は20人と、多くの生徒が自分に合った歯磨きの方法を知り、主体的に取り組む様子が見られている。



自分に合った歯磨きの方法を選択中

歯磨き 振り返りシート

名前 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

●自分の目標

\_\_\_\_\_

●どんな方法で取り組みましたか?

\_\_\_\_\_

●自分に合った歯磨きの方法は分かりましたか?

分かった ・ 分からなかった (どちらかに○をつけてね)

●自分から進んで歯磨きをすることができるようになりましたか?

できるようになった ・ できる時が多くなった

できない時が多かった ・ できなかった (どちらかに○をつけてね)

●1年間歯磨きの勉強をしてきての感想

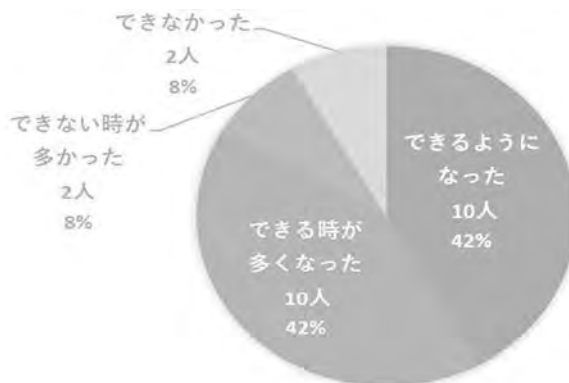
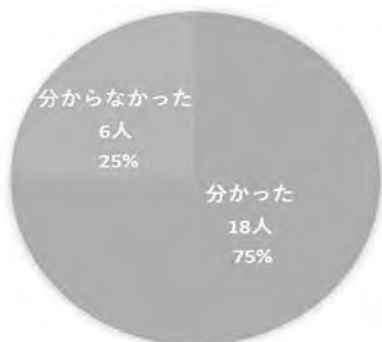
\_\_\_\_\_

1/2頁までに担当の先生と振り返りしましょう

振り返りシート

【振り返りシート 集計グラフ】

- ・自分に合った歯みがきの仕方は分かりましたか?
- ・自分から進んで歯みがきをすることができるようになりましたか?



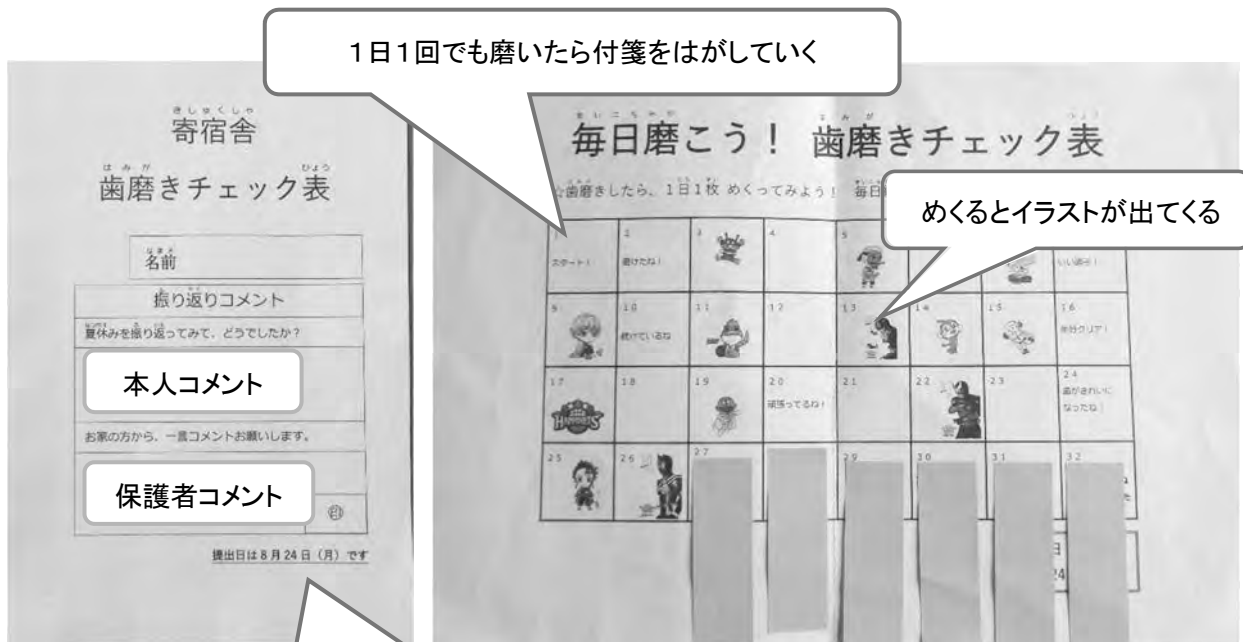
【生徒の感想】

- ・動画を見て上手に磨けた。・歯磨きの大切さを知った。
- ・歯の磨き方や磨く強さが分かって、以前に比べて丁寧に磨くことができるようになった。

(4) 保護者への情報発信

家庭でも自分から取り組むための手立てとして、家庭用の歯磨きチェック表を作成した。生徒の興味関心を引き出すための工夫と保護者の負担にならないことを考慮して、記入式ではなく、歯磨きをしたら1枚付箋をはがすのみとし、はがした付箋の下からイラストが出てくる仕掛けをした。

夏季休業と冬季休業の2回、歯磨きチェック表を各家庭に配付し、協力を依頼した。家庭への歯磨きチェック表の配付は初の試みであったが、提出率は24人中22人と多くの家庭から協力を得ることができ、家庭からの振り返りも記入されていた。



1日1回でも磨いたら付箋をはがしていく

めくるとイラストが出てくる

歯磨きチェック表

**【生徒からのコメント】**

- ・毎日忘れず歯磨きしました。
- ・おやつ後もしっかり磨きました。
- ・1日も欠かさずに頑張りました。

**【保護者からのコメント】**

- ・付箋をはがすのがうれしくて、楽しんで歯磨きしていました。
- ・仕上げ磨きもしっかりやれました。
- ・もっと丁寧に磨けるといいなと思いました。

## 7 成果と今後の取組

### (1) 成果

昨年度、指導員が指導方法として取り入れた様々な方法を基本とし、実態把握のもと、個々の生徒に合った有効な支援方法を探ってきた。さらに、変容を追って、より効果的な指導につなげるよう定期的な振り返りを行い、修正しながら指導を続けてきた。また、グループ別指導には全職員が関わり、実態に応じた指導を行うことができた。日常指導では、職員の指導体制を見直し、少人数での指導が可能になり、歯磨き指導への意識も向上した。

生徒に関しては、学習会を通して、虫歯の原因を知り、さらに自分の歯磨きの課題に触れ、必要性を理解した上で、主体的に取り組む姿が見られるようになった。実態は様々であるが、長期の取組によって、必要性を理解して正しい磨き方を覚え、磨き残しがないよう意識して歯磨きをする様子が見られるようになった。

### (2) 今後の取組

昨年度の課題から、今年度は個々に合った指導方法を取り入れ、より効果的な指導につなげる取組を行ってきた。個々に合った指導方法を今後も日常指導で継続していきたい。また、歯磨きの必要性については、定期的に確認の場面を設定していきたい。

### Ⅲ 研究の成果と今後の取組

# 全体研究の成果と今後の取組

今年度は、教科別の指導に焦点を当てて取り組んだ2年目の実践であった。教科別の指導の実践を通して、成果が得られた部分、これから取組を深めていかなければならない部分が見えてきた。まとめとして、研究の成果と今後の取組について、以下にまとめる。

## 1 研究の成果

### (1) 教科別の指導に対する理解の深まりと指導内容の検討・工夫

教科別の指導に焦点を当てて研究に取り組んだことで、教師が各教科に対する理解を深めた。

また、各教科で学んだことを日常生活や他の学習などで生かすために、どのような内容を取り上げたらよいかを具体的に考えながら指導に当たることができるようになってきた。

### (2) 育成したい力の明確化と教科横断的な視点での関連付け

児童生徒の力を高めていくためには、どのような力を育成したいのかを明確にした上で、児童生徒が学んだこと・覚えたこと・分かったこと・できるようになったことなどを、教科横断的な視点をもって、意識的に関連付けながら指導していくことが必要であると改めて確認した。

### (3) 評価を生かした授業改善

- ・これまで行っていた単元・題材検討会に加え、単元・題材の「評価の会」を行うようにした。実施日を単元・題材の終了時頃と決めたことで、意識して「評価の会」を実施するようになった。
- ・「評価の会」を設定し、定期的に取り組むことで、児童生徒にその単元・題材でどのような変容があったのか、何を学び、何が身に付いたのかなどを意識して見取ることにつながった。
- ・「評価の会」は、その教科を指導している教師と学級担任など複数の人で実施した。複数の人で児童生徒の学びを評価・共有することで、多面的に実態を再把握することができ、実態に応じた指導の工夫や次単元・題材で何を指導するのかを考えることにつながった。
- ・「評価の会」の実施は、児童生徒の変容を見取り、授業改善に結び付いただけでなく、年間指導計画や単元構想などの見直しにもつながった。改めて評価の大切さを実感した。

2年間、教科別の指導に焦点を当て授業づくりに取り組んできたが、「主体的な学び」や「深い学び」の視点から振り返ってみると、児童生徒にとって、身近で、分かりやすく、主体性をもちやすい題材であることや実生活とのつながりがあることが深い学びへと近付くのではないかと考えられた。また、学習評価の会を実施し、児童生徒の変容に基づいて授業改善を重ねることが、児童生徒に育てたい力を高める授業へと近付いていくことを改めて確認した。他単元や他教科等で学んだ内容を関連付けながら、児童生徒の学びをさらに深めていけるような授業づくりに今後も取り組んでいく。

## 2 今後の取組

### (1) 教科別の指導で学んだこと・身に付けた事柄を活用していくためのさらなる工夫

- ・教科別の指導で身に付けた事柄・学んだ事柄を生かすための具体的な場面を設定していく。
- ・学んだことを積み重ね、児童生徒の力とできるように、年間指導計画と「育てたい力」とそのために「何を学ぶのか」の関連を明らかにし、実践を継続する。
- ・教科別の指導の年間指導計画で、「何を学ぶのか」の視点をもつだけでなく、「どのように学ぶのか」の視点ももち、指導方法との関連も検討していく。

### (2) 評価を生かした学習内容及び「育てたい力」の検討

- ・評価をする機会を今後も継続して設定し、児童生徒一人一人がどの発達段階にあるのかを、学級担任と教科担任とともに検討・把握・共有をする。また、各教科と他の学習の実態や目標、評価を確認していく。
- ・評価したことを生かし、取り上げる内容や題材を検討するとともに、バランスよく学習できるようにする。年間指導計画とも関連付けを図る。
- ・評価を行うことで、学習内容の検討を行うだけでなく、その授業実践を通し「育てたい力」が付いたのかもしっかりと確認していく。





## あとがき

本校では昨年度からの2年間、「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科別の指導の授業づくり」をテーマに研究に取り組んで参りました。1年次の研究では、①児童生徒の実態把握、②自立活動の中心的な課題の確認、③学習指導要領の目標・内容の確認という基礎・基本を押さえることが教科別の指導の授業づくりをする上で大切であることを確認しました。そこで、今年度はこの3点のポイントについて凡事徹底を図りながら、児童生徒が学びを実感し、学んだことを活用して主体的に学習に取り組む姿を目指して実践・評価・改善を重ねて参りました。昨年度に引き続き、小学部は国語科、中学部は保健体育科、高等部は職業科の授業を取り上げました。中でも、中学部の保健体育科の授業づくりでは、秋田県立栗田支援学校の石垣徹教育専門監に題材検討の段階から御助言をいただき、実際の授業にも参加していただくなどしながら、全校授業研究会後の改善授業まで7回も本校に足をお運びいただきました。回を重ねるに連れて生徒の表情や取組の姿勢が変わってきたことを目の当たりにして、私たち職員も授業づくりの楽しさや醍醐味を改めて感じることができました。武道の題材として、「空手」を取り上げている学習はあまり例がなく、本校の特色ある取組として改善を重ねながら継続していきたいと考えております。石垣教育専門監にはこの場をお借りしましてお礼申し上げます。

さて、今年度は新型コロナ感染症対策として、全校授業研究会の校外への案内は控え、学部内で単元・題材検討会や模擬授業を実施したり、事前研究会の段階から管理職も加わって助言したりするなど、まさしく全校一丸となって授業づくりに取り組んで参りました。授業の目標や活動内容の妥当性、教材研究や環境設定などに始まり、児童生徒一人一人の名前を挙げながら個々への支援が適切であったかという点についても熱く丁寧に協議することで、児童生徒の変容ばかりではなく、授業者の達成感や授業力の向上にもつながったのではないかと思います。

本実践はまだまだ十分といえるものではありません。本年度の実践で得られた成果と課題を基に、「児童生徒が分かったこと・できるようになったことを実感し、それを生かしながら学習に取り組む姿」を目指してさらに研鑽を深めて参りたいと思います。

御高覧いただきまして、御教示、御助言を賜りますようお願い申し上げます。

教頭 伊藤 登美子

# 研 究 同 人

校長 佐藤 玉緒  
 教頭 伊藤 登美子  
 教頭 佐藤 大

研究部主任 加藤 美和子  
 小学部 小嶋 美智子 小林 生  
 中学部 杉森 利津子  
 高等部 館山 柊 大山 裕子  
 寄宿舎 佐藤 千鶴子 水谷 あすか  
 金釜 未幸 新目 源

## 【小学部】

主事 工藤 未央  
 1年 高橋 沙織  
 小沼 后子  
 2年 今井 萌子  
 小林 生  
 菊地 操  
 3年1組 佐藤 礼子  
 小嶋 美智子  
 3年2組 山谷 美樹  
 鈴木 梨沙  
 4年 秋元 仁美  
 柏崎 久美子  
 5・6年 高橋 勝  
 村岡 静香  
 学部所属 筒井 仁  
 船山 真生  
 村形 日都美

## 【中学部】

主事 齊藤 舞子  
 1年1組 大塚 佳樹  
 畠山 千紗  
 1年2組 由利 和也  
 南 彩瑛  
 堀江 奈美子  
 2年1組 杉森 利津子  
 安田 幸道  
 2年2組 館山 奈穂子  
 佐藤 明子  
 3年 菊地 直枝  
 館岡 裕介  
 学部所属 小笠原 英紀 柿崎 貴之  
 加藤 美和子 五十嵐 俊輔  
 佐藤 洋美 高橋 正義

## 【高等部】

主事 伊藤 健人  
 1年A組 佐藤 暁子  
 山田 育宏  
 1年B組 館山 柊  
 平塚 朋子  
 2年A組 佐藤 加奈子  
 大山 裕子  
 武藤 拓人  
 2年B組 落合 久貴子  
 佐藤 里沙  
 2年C組 佐々木 捷吾  
 工藤 彩野  
 伊藤 あゆ子  
 3年A組 小野 格  
 菊地 昭子  
 3年B組 佐藤 響子  
 中田 耀介  
 学部所属 門脇 恵  
 虻川 由作  
 橋本 基裕  
 鈴木 雄裕  
 佐々木 正則  
 亀谷 孝子  
 長谷川 善行  
 畠山 祐佳里  
 田口 芽

## 【寄宿舎】

主任 鳥潟 真紀子 金子 聡子  
 加藤 智子 西嶋 一就  
 馬場 真理子 大高 尚子  
 工藤 幸喜 佐藤 初子  
 金釜 未幸 阿部 洋子  
 菊池 静香 桜田 民子  
 鷺谷 恵理 新目 源亮  
 佐藤 千鶴子 加藤 佑亮  
 水谷 あすか

## 研究紀要 しらかみ 第27号

令和3年3月 発行

発行者 秋田県立能代支援学校  
 〒016-0005 秋田県能代市真壁地字トトメキ沢135番地  
 TEL 0185-55-0691  
 FAX 0185-55-0681  
 E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp  
 ホームページ http://www.noshiroshien.ed.jp